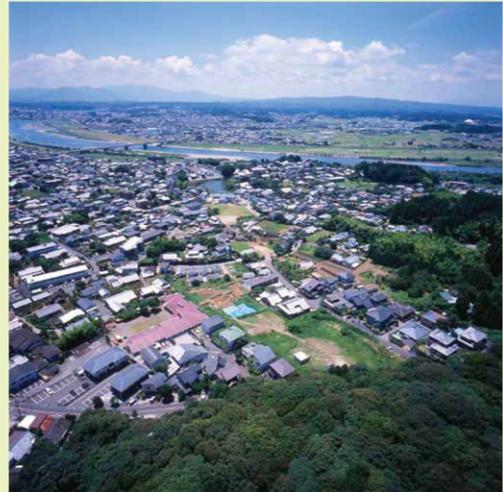


しも きた かた はな きり だい に い せき
下北方花切第2遺跡

宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2015

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書 第106集

しも きた かた はな きり だい に い せき
下北方花切第2遺跡

宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

宮崎市教育委員会

巻頭カラー1



下北方花切第2遺跡より宮崎市街地を望む（平成24年度）



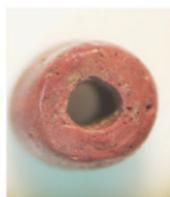
下北方花切第2遺跡空中写真



A区地下式横穴墓出土遺物



2 : 上面



3 : 上面



4 : 上面



2 : 側面



3 : 側面



4 : 側面

A区地下式横穴墓1出土ガラス玉実体顕微鏡写真

序 文

本書は平成24年度・平成25年度に実施された、下北方花切第2遺跡の発掘調査報告書です。

遺跡が所在する下北方丘陵は、旧石器時代から近世にかけての遺跡が密集していることから、周知の文化財包蔵地「下北方遺跡群」として指定を受けております。また、こうした歴史的遺産を後世に伝えるため、本市では開発事業に伴う発掘調査・保存活動に取り組んでいます。

今回の発掘調査では、旧石器時代から平安時代にかけての多数の遺構・遺物が確認されました。これらは、下北方丘陵が太古から人々の生活の拠点であったことを物語るものです。本書の成果が広く市民の皆さまに活用され、地域の歴史や文化に親しむ上での一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力頂いた皆さまに感謝申し上げますと共に、今後とも本市の文化財保護行政にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

宮崎市教育委員会
教育長 二見俊一

例 言

1. 本書は平成24年度・平成25年度に実施した、宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は、宮崎市教育委員会文化財課が民間事業者から委託を受け実施した。
3. 現地における発掘調査、室内整理作業は以下の期間実施した。

発掘調査：平成25年1月30日～平成25年3月29日、平成25年4月30日～平成25年8月22日

整理作業：平成25年11月5日～平成26年3月14日、平成26年6月16日～平成26年9月12日

4. 調査組織 調査主体：宮崎市教育委員会 文化財課

(平成24年度)

調査総括	課長	田村 泰彦
	課長補佐	山田 典嗣
	主任技師	鳥田 正浩
調整事務	主査	鳥枝 誠
調査担当	主任技師	石村 友規
	技師	河野 裕次
	嘱託員	日高 優子

(平成25年度)

調査総括	課長	橋口 一也
	課長補佐	山田 典嗣
	主任技師	鳥田 正浩
調整事務	主任技師	西嶋 剛広
調査・整理担当	技師	河野 裕次
	嘱託員	日高 優子
	嘱託員	川野 誠也
	嘱託員	徳丸 理奈

(平成26年度)

調査総括	課長	橋口 一也
	課長補佐	日高 貞幸
	主任技師	鳥田 正浩
調整事務	主査	鳥枝 誠
整理担当	技師	河野 裕次
	嘱託員	船石 涼代
	嘱託員	徳丸 理奈

5. 現地における測量はトータルステーションを用いて行ない、個別の遺構実測図は1/20・1/10で作成した。また、個別遺構の写真撮影については6×7判と35mmのモノクロ・リバーサルフィルムを併用した。
6. 現地における実測は調査担当の他、金丸武司、竹中克繁、西嶋剛広、橋口由佳が行なった。
7. 現地における空中写真撮影は(有)スカイサーベイ九州に、金属製品の保存処理は(株)英文化に業務委託した。
8. 本書に掲載した遺物の実測及びトレースは、河野、徳丸、整理作業員が分担して行ない、一部を(株)九州文化財研究所に業務委託した。なお、掲載した遺物実測図の縮尺は土師器・須恵器・土製品1/3、礫石器・鉄器1/2、剥片石器2/3、ガラス製玉類1/1を基本とし、それ以外の縮尺のものについては図中に記載している。
9. 本書における土色の表記は「新版 標準土色帳」に依拠した。
10. 本書における遺構略号は以下の通りである。また、竪穴住居実測図中の一点鎖線は貼床の範囲を示す。
SA：竪穴住居 SC：土坑 SE：溝状遺構 SI：集石 SM：周溝墓 SR：礫群 ST：地下式横穴墓
11. 本書で示す方位は全て真北を示す。
12. 発掘調査により出土した遺物、及び調査における図面、写真、記録等は宮崎市教育委員会にて保管している。
13. 本書の編集は河野が行なった。

本文目次

第I章 遺跡周辺の環境

- 第1節 地理的環境・・・・・・・・・・ 1
第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・ 1

第II章 調査に至る経緯と調査の経過

- 第1節 調査に至る経緯・・・・・・・・・・ 5
第2節 調査の経過・・・・・・・・・・ 5

第III章 調査の成果 (A区)

- 第1節 調査成果の概要・・・・・・・・・・ 7
第2節 基本層序・・・・・・・・・・ 7
第3節 縄文時代早期の遺構・・・・・・・・ 9
第4節 古墳時代の遺構と遺物・・・・・・・・ 9
第5節 古代以降の遺構と遺物・・・・・・・・ 13
第6節 その他の遺構と遺物・・・・・・・・ 30

第IV章 調査の成果 (B区)

- 第1節 調査成果の概要・・・・・・・・・・ 43
第2節 基本層序・・・・・・・・・・ 44
第3節 旧石器時代の遺構と遺物・・・・・・・・ 44
第4節 縄文時代早期の遺物・・・・・・・・ 54
第5節 古代の遺構と遺物・・・・・・・・ 56
第6節 その他の遺構と遺物・・・・・・・・ 82

第V章 まとめ・・・・・・・・・・ 101

- 第1節 旧石器時代について・・・・・・・・ 101
第2節 縄文時代早期について・・・・・・・・ 101
第3節 古墳時代について・・・・・・・・ 101
第4節 古代以降について・・・・・・・・ 102

挿 図 目 次

- 第1図 周辺遺跡・・・・・・・・・・ 2
第2図 下北方遺跡群・・・・・・・・・・ 3
第3図 調査区位置図・・・・・・・・・・ 6
第4図 A区遺構配置図・・・・・・・・・・ 7

- 第5図 A区基本層序実測図・・・・・・・・ 8
第6図 A区集石遺構1実測図・・・・・・・・ 9
第7図 A区地下式横穴墓1実測図・・・・ 10
第8図 A区地下式横穴墓1出土遺物実測図・・ 11

- 第9図 A区地下式横穴墓2実測図、遺物出土状況実測図・・・・・・・・ 12

- 第10図 A区地下式横穴墓2出土遺物実測図・・・・・・・・ 13

- 第11図 A区地下式横穴墓3実測図・・・・ 14

- 第12図 A区堅穴住居1実測図、土器埋設炉実測図・・・・・・・・ 15

- 第13図 A区堅穴住居1出土遺物実測図①・・・・・・・・ 16

- 第14図 A区堅穴住居1出土遺物実測図②・・・・・・・・ 17

- 第15図 A区堅穴住居2・3・4・5実測図、出土遺物実測図・・・・・・・・ 18

- 第16図 A区堅穴住居6実測図、出土遺物実測図・・・・・・・・ 19

- 第17図 A区堅穴住居7実測図・・・・・・・・ 20

- 第18図 A区堅穴住居7カマド実測図・・・・ 21

- 第19図 A区堅穴住居7出土遺物実測図・・・・ 22

- 第20図 A区堅穴住居8実測図、炉実測図・・・・ 23

- 第21図 A区堅穴住居8出土遺物実測図・・・・ 24

- 第22図 A区堅穴住居9実測図、出土遺物実測図・・・・・・・・ 25

- 第23図 A区アカホヤ火山灰層上面溝状遺構(古代・中世)実測図、土層実測図・・・・ 26

- 第24図 A区アカホヤ火山灰層上面溝状遺構(古代・中世)土層実測図②・・・・ 27

- 第25図 A区溝状遺構出土遺物実測図・・・・ 28

- 第26図 A区その他出土遺物実測図・・・・ 29

- 第27図 B区基本層序実測図・・・・・・・・ 43

- 第28図 B区旧石器時代包含層出土土礫分布図・・・・ 44

- 第29図 B区旧石器 Tr 1 出土土礫分布図・・・・ 45

第30図	B区旧石器時代包含層出土石器分布図①	46	第50図	B区竪穴住居18・19実測図、カマド実測図	65
第31図	B区旧石器時代包含層出土石器分布図②	47	第51図	B区竪穴住居18・19出土遺物実測図	66
第32図	B区旧石器Tr1出土石器分布図	48	第52図	B区竪穴住居20・21実測図、土器埋没炉実測図	67
第33図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図①	49	第53図	B区竪穴住居20・21出土遺物実測図	68
第34図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図②	50	第54図	B区竪穴住居22実測図、出土遺物実測図	69
第35図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図③	51	第55図	B区竪穴住居23実測図、出土遺物実測図	70
第36図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図④	52	第56図	B区竪穴住居24実測図	70
第37図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑤	53	第57図	B区竪穴住居25・26・27・28・29・30・31・32実測図	71～72
第38図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑥	54	第58図	B区竪穴住居27・26・29・28出土遺物実測図	73
第39図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑦	55	第59図	B区竪穴住居25出土遺物実測図	74
第40図	B区旧石器時代包含層出土遺物実測図⑧	56	第60図	B区土坑1実測図	75
第41図	B区縄文時代早期包含層出土遺物実測図	57	第61図	B区土坑2実測図、出土遺物実測図	75
第42図	B区遺構配置図	58	第62図	B区竪穴住居29カマド・竪穴住居28実測図	76
第43図	B区南壁面土層実測図	59	第63図	B区竪穴住居28カマド・29カマド出土遺物実測図	77
第44図	B区竪穴住居13実測図、土器埋設炉実測図、出土遺物実測図	60	第64図	B区竪穴住居30土器埋設炉実測図、出土遺物実測図	77
第45図	B区竪穴住居14・15実測図、土器埋設炉実測図	61	第65図	B区竪穴住居25・26・27・28・29・30・31・32一括出土遺物実測図①	78
第46図	B区竪穴住居14・15出土遺物実測図	62	第66図	B区竪穴住居25・26・27・28・29・30・31・32一括出土遺物実測図②	79
第47図	B区竪穴住居16実測図、出土遺物実測図	63	第67図	B区周溝墓1実測図	80
第48図	B区竪穴住居17実測図	63	第68図	B区周溝墓1出土遺物実測図	81
第49図	B区竪穴住居17出土遺物実測図	64	第69図	B区その他遺構出土遺物実測図	82

表 目 次

第1表 出土土器観察表①【A区】 31

第2表	出土土器観察表②【A区】	32
第3表	出土石器計測分類表【A区】	33
第4表	出土ガラス製品計測分類表【A区】	33
第5表	出土鉄器計測分類表【A区】	34
第6表	出土青銅器計測分類表【A区】	34
第7表	出土土器観察表①【B区】	83
第8表	出土土器観察表②【B区】	84
第9表	出土土器観察表③【B区】	85
第10表	出土土器観察表④【B区】	86
第11表	出土石器計測分類表①【B区】	87
第12表	出土石器計測分類表②【B区】	88
第13表	出土鉄器計測分類表【B区】	88
第14表	出土銭貨計測分類表【B区】	88

図 版 目 次

図版1	A区全景、遺構完掘状況	36
図版2	A区縄文時代早期、古墳時代遺構①	37
図版3	A区古墳時代遺構②	38
図版4	A区古代遺構	39
図版5	A区古墳時代遺物	40
図版6	A区古代遺物①	41
図版7	A区古代遺物②	42
図版8	B区全景、遺構完掘状況	89
図版9	B区旧石器時代遺構、古代遺構①	90
図版10	B区古代遺構②	91
図版11	B区古代遺構③	92
図版12	B区古代遺構④	93
図版13	B区古代遺構⑤、旧石器時代遺物①	94
図版14	B区旧石器時代遺物②	95
図版15	B区旧石器時代遺物③、縄文時代早期遺物、古代遺物①	96
図版16	B区古代遺物②	97
図版17	B区古代遺物③	98
図版18	B区古代遺物④	99

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

本書で報告する下北方花切第2遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」に含まれている。下北方遺跡群は宮崎市街地の北西部、大淀川左岸に立地する下北方丘陵上に位置する。下北方丘陵は宮崎市北西部の垂水台地から南に向かって派生する、宮崎層群を基盤とした丘陵である。丘陵の西側には大淀川が流れており、かつては丘陵の南側を東流する大淀川の旧河道が存在したとされている。また、丘陵各地には大小の開析谷が形成されており、その開析谷を利用した溜池が各地に点在する。一方で丘陵南端部には比較的平坦な面が広がっており、そこには現在閑静な住宅街が広がっている。本遺跡は、この平坦面の北側にあたる南向きの斜面上に立地する。

第2節 歴史的環境

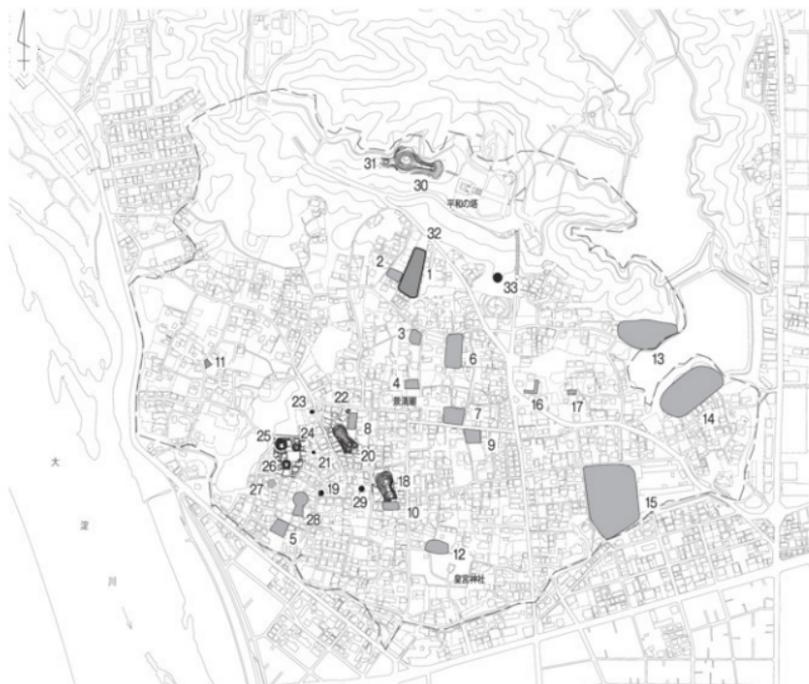
下北方丘陵南端部は、周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」の範囲となっている。この地区は宮崎市の中でも遺跡の密度が高い地区として知られており、宅地開発や個人住宅建設等の開発事業に伴う確認調査、本発掘調査が頻繁に実施されている。また、下北方遺跡群の範囲内には県指定史跡「下北方古墳」が所在する。

下北方遺跡群は旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。旧石器時代から縄文時代にかけては、下郷遺跡で剥片尖頭器や角錐状石器を主体とした石器群や、縄文時代早期の押型文土器、塞ノ神式土器、縄文時代中期の阿高式系土器等が出土している。また、塚原第3遺跡でも塞ノ神式土器や剥片の出土がみられる。下北方遺跡群ではローム層以下の調査事例が少ないため縄文時代早期以前の遺構、遺物の検出事例が少ないが、本書で報告する花切第2遺跡では旧石器時代の石器集中部が検出されている他、平成26年度に本発掘調査が実施された下郷第6遺跡でも旧石器時代の石器集中部が検出されていることから、地点によっては遺構、遺物が良好に残存していることが明らかになりつつある。また、下北方丘陵の北部に位置する垂水台地上では、垂水第1・第2遺跡や金剛寺原第1・第2遺跡等の旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数所在している。地形的に連続性を持つことから、下北方遺跡群との関連性が注目される。

弥生時代には、丘陵東端に環濠集落である下郷遺跡が営まれ、弥生時代前期末～終末期にかけて断続的に集落が形成されることが明らかとなっている。下郷遺跡は、下北方丘陵東端部に突出する独立丘陵状の部分に位置し、その丘陵を囲むように2重の環濠を廻らせている。ただし、この2重の環濠は同時期のものとは考えられていない。環濠内側は削平のため遺構がほとんど残存していないが、環濠内や貯蔵穴内からは多数の遺物が検出されている。環濠内には前期末～終末期の遺物がみられるが、特に後期中葉以降の遺物が多数認められる。遺物の中で注目されるのは宮崎市の指定有形文化財となっている、貯蔵穴から出土した完形の絵画土器であり、壺の胴側面全体に具象的な線刻が施された特徴的なものである。また、同時期の遺跡として、下郷遺跡の東側谷部に中期中葉の土器が出土した宮崎大学茶園遺跡が、さらにその東側沖積地には、貯蔵穴や溝状遺構、旧河道と共に木製農耕具や釜が出土した垣下遺跡が所在する。これらは弥生時代の集落と生産域の様相を考える上で貴重な事例といえる。



第1図 周辺遺跡



番号	遺跡名	所在地	主な時代	番号	遺跡名	所在地	主な時代
1	花切第2遺跡	下北方町花切	銅石器・古墳・古代	18	下北方1号墳	下北方町塚原	古墳
2	花切第1遺跡	下北方町花切	古墳・古代	19	下北方2号墳	下北方町塚原	古墳
3	塚原第1遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	20	下北方3号墳	下北方町塚原	古墳
4	塚原第2遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	21	下北方4号墳	下北方町塚原	古墳
5	塚原第3遺跡	下北方町塚原	古墳・近世	22	下北方5号墳	下北方町塚原	古墳
6	下郷第2遺跡	下北方町下郷	古代・近世	23	下北方6号墳	下北方町塚原	古墳
7	下郷第3遺跡	下北方町下郷	古墳・古代	24	下北方7号墳	下北方町塚原	古墳
8	下北方5号墳周辺遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	25	下北方8号墳	下北方町塚原	古墳
9	下郷第4遺跡	下北方町下郷	古墳・古代	26	下北方9号墳	下北方町塚原	古墳
10	下北方1号墳周辺遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	27	下北方10号墳	下北方町塚原	古墳
11	戸林第1遺跡	下北方町戸林	古墳・古代	28	下北方11号墳	下北方町塚原	古墳
12	横小路遺跡	下北方町横小路	古墳・古代	29	下北方12号墳	下北方町塚原	古墳
13	平和台下遺跡	下北方町下郷	不明	30	下北方13号墳	下北方町塚原	古墳
14	下郷遺跡	下北方町下郷	弥生	31	下北方14号墳	下北方町越ヶ道	古墳
15	大宮中学校遺跡	下北方町横小路	弥生	32	下北方15号墳	下北方町花切	古墳
16	下郷第5遺跡	下北方町下郷	古墳・古代	33	下北方16号墳	下北方町高下	古墳
17	下郷第6遺跡	下北方町下郷	銅石器・古墳・近世	地図中の点線が周地の包蔵地「下北方遺跡群」の範囲を示す。			

第2図 下北方遺跡群 (S= 1/10000)

古墳時代には、下北方遺跡群の南西部、塚原地区を中心に下北方古墳が形成される。下北方古墳は中期中葉から築造が開始された古墳群で、大淀川下流域の有力な首長系譜墓の一つとされている。現宮崎神宮境内に所在する船塚古墳を含めた前方後円墳5基、円墳12基が指定を受けている他、地下式横穴墓も今回調査分を含め25基確認されている。高塚墳については調査事例が少ないが、地下式横穴墓からは宮崎平野部における地下式横穴墓の様相を考える上で貴重な遺物が多数検出されている。特に5号地下式横穴墓からは金製垂飾付耳飾、鉄製甲冑、馬具、石製・ガラス製玉類といった豊富な副葬品が出土しており、地下式横穴墓の被葬者像を考える上で貴重な資料といえる。下北方古墳では古墳時代後期の13号墳と船塚古墳を最後に古墳の築造を停止するが、その後は瓜生野村古墳や池内横穴墓といった横穴墓が丘陵斜面に形成されている。集落の調査では、下郷第4遺跡や塚原第2遺跡で古墳時代後期の住居址が確認されているが、面的な広がりについては不明瞭な部分も多い。

古代に入ると、塚原第2遺跡で9世紀後半代に属する寺院と考えられる建物が検出されるとともに、素弁八葉蓮華文軒丸瓦や灯明皿といった多数の遺物が検出されている。また、下郷第4遺跡で竪穴住居や掘立柱建物と共にコップ形の須恵器が出土している他、塚原第1遺跡でも古代の住居址、溝状遺構が確認されている。さらに、これらの遺跡では鉄生産に関わる遺物も多く出土している。このように、下北方遺跡群では古代の遺構、遺物が多く検出されており、それらの中には寺院（あるいは役所）のような建物も含まれていることから、この地区が古代宮崎郡の政治的、生産的な拠点であった可能性が高いといえよう。

下北方遺跡群における中世の様相は不明瞭であるが、丘陵北側には伊東氏と島津氏の抗争の舞台となった宮崎城が所在する。宮崎城は南部九州に特徴的な館屋敷式山城と呼ばれる構造をもつ。『日向記』や『土持文書』にみられる建武3年(1336)の記載が文献上の初見で、伊東氏と島津氏の抗争の舞台となった後は江戸時代の一国一城令で廃城となっている。また、島津氏時代に城主を務めた上井覚兼が残した『上井覚兼日記』は、詳細な記述内容から史料価値の高い文献となっている。

近世の下北方地区は延岡藩の飛び地となっており、代官所が現在の大宮中学校付近に所在したといわれている。下北方遺跡群では、塚原第3遺跡で近世の土坑墓が検出されている等、近世の遺構、遺物の検出事例は少なくない。また、下北方遺跡群の各所で近世段階の土地改変と考えられる削平や理め立てが確認されている。これらのことから、この地区には代官所を中心とした屋敷地が広がっていた可能性が考えられる。

このように、下北方地区で確認されている各時代の遺構、遺物の様相から、この地区が古くから宮崎平野部の中心的な場所の一つであったことがうかがえる。今後の調査の進展によって、下北方地区の歴史的重要性がさらに明らかになっていくことが期待されよう。

第Ⅱ章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成21年6月25日、宅地分譲に伴い民間事業者より下北方町花切5681番1他における埋蔵文化財の有無について、本市教育委員会文化財課宛てに照会がなされた。事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」の範囲に含まれることから、平成21年7月21日～平成21年7月29日、平成21年8月11日～平成21年8月13日にかけて事前の確認調査を実施した。また、事業地北端部は県指定史跡「下北方15号墳」の指定を受けているが、現状ではその形状を確認することができないため、位置確認のための地中レーダー探査を平成21年11月27日に、確認調査を平成22年1月25日～平成22年2月5日にかけて実施した。確認調査の結果、事業地は大きく4段に造成されているが、本来の地形は南に向かって下る斜面であり、地点によっては遺物包含層及び遺構、遺物が良好に残存していることが明らかとなった。しかし、地中レーダー探査、確認調査の結果、下北方15号墳については削平により消失していることが明らかとなったため、平成22年9月9日に史跡指定の解除が行なわれた。確認調査の詳細については『宮崎市試掘・確認調査報告書』（宮崎市文化財調査報告書第87集）に報告されている。これらの結果を受けて、本市文化財課と民間事業者との間で埋蔵文化財の取り扱いに関する協議を重ねた結果、事業による削平を免れない1093㎡について、記録保存を目的とした本発掘調査を実施するに至った。

第2節 調査の経過

本発掘調査は、平成25年1月30日～平成25年3月29日（A区）、平成25年4月30日～平成25年8月22日（B区）の2次に分けて実施した。

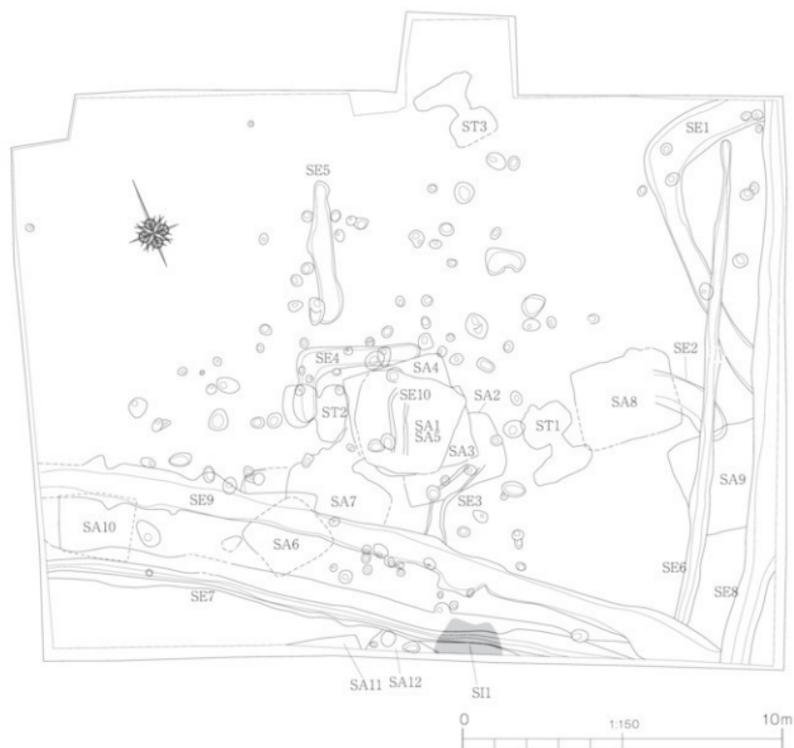
A区の調査は、まず重機により表土及び遺物包含層である黒ボク土（Ⅱ～Ⅳ層）を除去し、アカホヤ火山灰層（Ⅴ層）上面で遺構検出を試み、その後人力による遺構掘削を記録作業と併行して行なった。密集して重複する古代の竪穴住居や、南北に伸びる溝状遺構等多数の遺構が検出された他、古墳時代の地下式横穴墓も3基検出され、遺構掘削のため一部調査区の拡張を行なった。Ⅴ層上面での遺構掘削と併行して、縄文時代早期ローム層（Ⅷ層）のトレンチ調査も実施した。A区の空中写真撮影は平成25年3月16日に実施し、重機による埋め戻しと調査機材の撤収作業を行ない、A区の調査を終了した。発掘調査の延べ日数は38日である。

B区の調査についても、重機により表土を掘削し、アカホヤ火山灰層（Ⅱ層）上面での遺構検出を試み、その後人力による遺構掘削を記録作業と併行して行なった。また、Ⅱ層上面の調査と併行して旧石器時代包含層（Ⅷ・Ⅸ層）のトレンチ調査も実施した。B区の空中写真撮影は平成25年7月19日に実施し、重機による埋め戻しと調査機材の撤収を行ない、B区の調査を終了した。発掘調査の延べ日数は69日である。

整理作業は宮崎市清武埋蔵文化財センターで行ない、平成25年11月5日～平成26年3月14日、平成26年6月16日～平成26年9月12日の期間で実施した。また、出土金属器の保存処理は榊葵文化に、出土遺物の実測・トレースの一部は熊本九州文化財研究所に業務委託した。



第3図 調査区位置図 (S= 1/800)



第4図 A区遺構配置図 (S= 1/150)

第Ⅲ章 調査の成果（A区）

第1節 調査成果の概要

A区は大きく4段に造成された事業地の上から2段目、標高29～30mの部分に当たる。表土剥ぎの結果、旧地形は北西から南東に向けて下る傾斜地であることが確認された。遺構が集中するのは調査地中央部から南側にかけての範囲であるが、調査区西北部は基本層序Ⅳ層まで削平が及んでいたためか遺構はほとんど検出されなかった。調査の結果、縄文時代早期の集石遺構1基、古墳時代の地下式横穴墓3基、古代の堅穴住居12軒、古代～中世の溝状遺構8条、古墳時代～古代の土坑、多数の柱穴等が検出された。

第2節 基本層序（第5図）

A区の基本層序は第5図の通りである。鍵層となる火山噴出物はアカホヤ火山灰（7300年前、

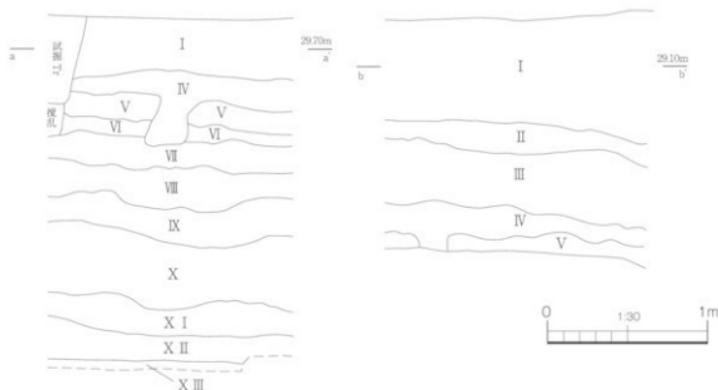


調査区北壁 a-a'



調査区東壁 b-b''

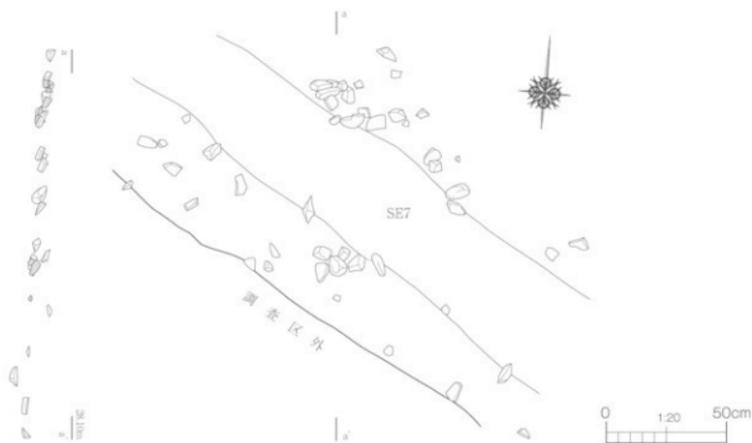
写真図版 A区基本層序



土層注記

- I 表土
- II 暗褐色 (Hue10YR3/3)。粘性、しまりややあり。砂混シルト。橙色粒子を多く含む。
- III 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性、しまりややあり。砂混シルト。橙色粒子を多く含む。
- IV 黒褐色 (Hue10YR2/2)。粘性、しまりややあり。シルト。橙色粒子を少量含む。
- V 黄褐色 (Hue10YR8/8)。アカホヤ火山灰層。
- VI 暗褐色 (Hue10YR3/3)。ローム。アカホヤの軽石を多く含む。
- VII 暗褐色 (Hue10YR3/3)。ローム。
- VIII 褐色 (Hue10YR4/4)。ローム。暗褐色ロームブロックを含む。
- IX におい黄褐色 (Hue10YR5/4)。ローム。小林降下軽石を多く含む。
- X 暗褐色 (Hue10YR3/3)。ローム。暗褐色の硬いロームブロックを多く含む。
- XI におい黄褐色 (Hue10YR4/3)。ローム。暗褐色ロームブロックを多く含む。しまり強く、ややざらざらした質感。
- XII AT層

第5図 A区基本層序実測図 (S= 1/30)



第6図 A区集石遺構1実測図 (S= 1/20)

V～VI層)、小林降下軽石（16700年前、IX層中に含まれる）、始良・丹沢火山灰（28000年前、XII層）が確認されている。

第3節 縄文時代早期の遺構

第1項 集石遺構

集石遺構1（第6図） A区南端部のアカホヤ火山灰層下Ⅷ層中で検出された。溝状遺構7によって中央部が失われている。構成礫の範囲は南北1.7m、東西2.0mに及び、調査区外にさらに広がるものと考えられる。礫の堆積は水平であり、掘り込みは確認されなかった。

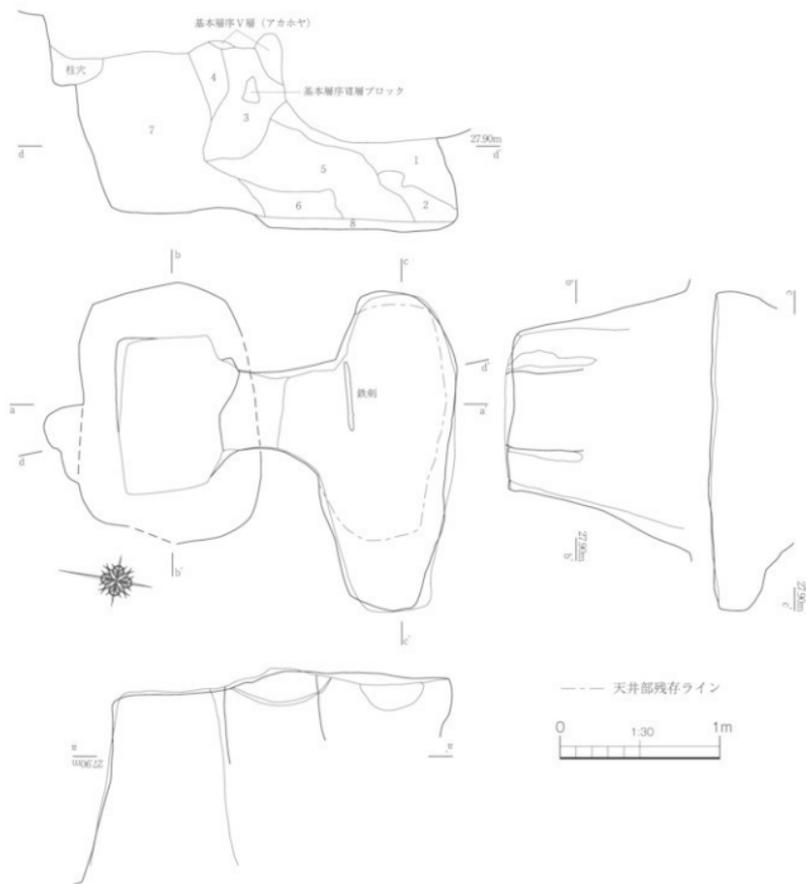
第4節 古墳時代の遺構と遺物

第1項 地下式横穴墓

地下式横穴墓1（第7～8図） A区東南部で検出された。下北方第23号地下式横穴に該当する。竪坑から玄室奥壁までは2.34mを測る。竪坑は平面隅丸方形を呈し、長軸1.66m、短軸1.08mを測り、検出面から竪坑床面までは1.3mを測る。竪坑床面は平坦で、羨道部から玄室にかけてわずかに傾斜している。また、羨道の中程から玄室にかけて暗褐色ローム土による貼床が施されている。羨門部側面は直線的に立ち上がる形状を呈し、わずかに凹みが生じていることから板閉塞に伴うものの可能性がある。玄室構造は平入りで、平面形は長軸2.06m、短軸0.9mの楕円形を呈する。天井部は崩落しているが、立ち上がりからドーム状になると考えられる。わずかに玄室東側が高くなっており、遺物の出土状況と合わせると東側に埋葬頭位が向くと考えられる。埋土の堆積状況から、竪坑埋土の流入後天井部が崩落したと考えられる。

遺物は鉄剣が1点とガラス製小玉が3点出土している。遺物は玄室北東部に集中して出土し

第4節 古墳時代の遺構と遺物



土層注記

- | | |
|---|--|
| <p>1 黒 (Hue10YR2/1). 粘性あり、しまり弱い。砂混シルト。ロームブロックを多く、アカホヤブロックを少量含む。流入土。</p> <p>2 褐色 (Hue10YR4/4). 粘性、しまりあり。ローム。小林降下軽石を含む。天井崩落土。</p> <p>3 黒褐色 (Hue10YR2/2). 粘性、しまりやや弱い。シルト。アカホヤブロックを多く含む。流入土。</p> <p>4 3層と7層が斑状に混ざる。漸移層。</p> | <p>5 黒褐色 (Hue10YR2/2). 粘性やや弱、しまり弱い。シルト。橙色粒子、ロームブロック、アカホヤブロックを含む。流入土。</p> <p>6 褐色 (Hue10YR4/4). 粘性あり、しまりやや弱い。ローム。7層に似るが、しまりやや弱い。堅坑埋土の流入土。</p> <p>7 褐色 (Hue10YR4/4). 粘性あり、しまりやや弱い。ローム。アカホヤブロック、小林降下軽石を多く含む。堅坑遺埋土。</p> <p>8 暗褐色 (Hue10YR3/4). 粘性あり、しまりやや弱い。ローム。暗褐色の硬いロームブロックを含む。貼床。</p> |
|---|--|

第7図 A区地下式横穴墓1実測図 (S= 1/30)



第8図 A区地下式横穴墓1出土遺物実測図 (S=1/2・1/1)

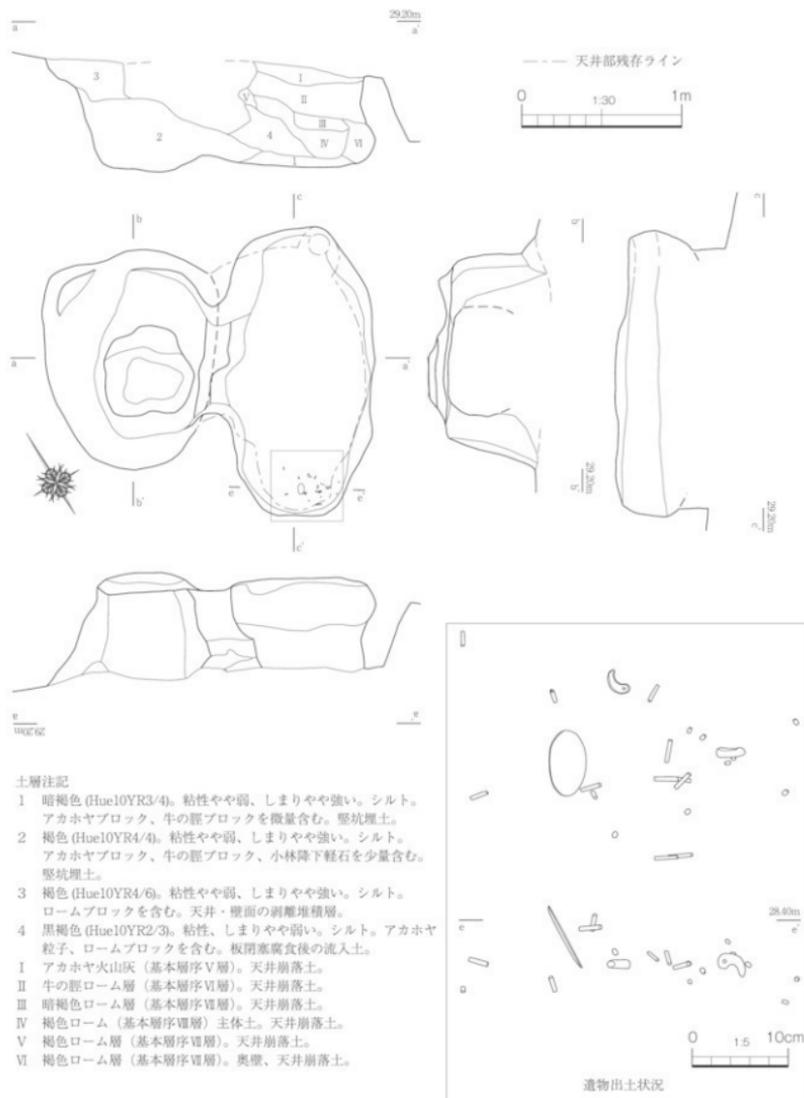
た。1は鉄剣である。木質の柄部が残存しており、側面に板状の部材がはめ込まれた痕跡を確認できる。2～3はガラス製小玉である。透明度の低い暗赤褐色を呈するもので、表面に気泡が観察できる。

地下式横穴墓2 (第9～10図) A区中央部で検出された。下北方第24号地下式横穴に該当する。竪坑から玄室奥壁までは2.07mを測る。竪坑は平面形が長軸0.94m、短軸1.4mの不整円形を呈し、検出面から竪坑床面までは0.68mを測る。竪坑後壁にステップ状の段が作出されている他、床面中央部にすり鉢状の掘り込みを有している。羨門部側面の立ち上がりは湾曲している。また、羨門から玄室に向かって床面が傾斜している。玄室構造は平入りで長軸1.85m、短軸0.95mの楕円形を呈する。天井部が崩落しているが、立ち上がりからドーム状になると考えられる。床面は玄室北東側がわずかに高い。埋土の観察から竪坑埋土の流入後天井部が崩落したと考えられる。

遺物は青銅製朱文鏡や石製勾玉、棗玉、管玉が玄室南西隅に集中して出土しており、被葬者の頭位方向を示すと考えられる。5は朱文鏡である。背面の文様に赤色顔料の付着が認められる。6～8は石製勾玉である。平面形C字状を呈し、横断面が丸みを帯びる。6と8は石材、形態共に極めて類似している。9～30は石製管玉である。色調はオリーブ灰色を主体とするが、30のみ暗青灰色で質感が異なる。31～40は石製棗玉である。41は流入土中から出土した土師器の無頸壺である。

地下式横穴墓3 (第11図) A区北側で検出された。下北方第25号地下式横穴に該当する。竪坑から玄室奥壁までは2.29mを測る。竪坑は平面隅丸方形を呈し、長軸1.48m、短軸1.02mを測り、検出面から竪坑床面までは

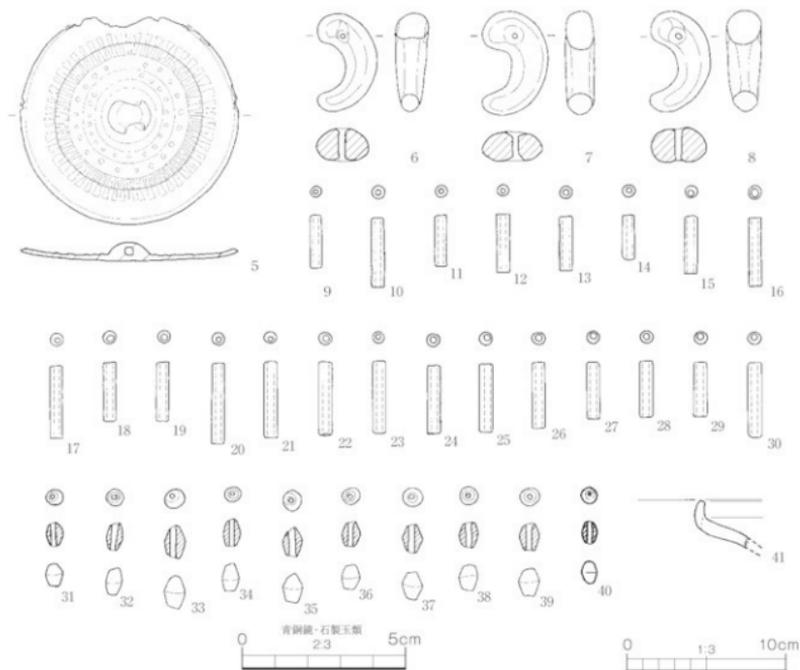
第4節 古墳時代の遺構と遺物



土層注記

- 1 暗褐色 (Hue10YR3/4)。粘性やや弱、しまりやや強い。シルト。アカホヤブロック、牛の脛ブロックを微量含む。堅坑埋土。
- 2 褐色 (Hue10YR4/4)。粘性やや弱、しまりやや強い。シルト。アカホヤブロック、牛の脛ブロック、小林降下軽石を少量含む。堅坑埋土。
- 3 褐色 (Hue10YR4/6)。粘性やや弱、しまりやや強い。シルト。ロームブロックを含む。天井・壁面の剥離堆積層。
- 4 黒褐色 (Hue10YR2/3)。粘性、しまりやや弱い。シルト。アカホヤ粒子、ロームブロックを含む。板閉塞腐食後の流入土。
- I アカホヤ火山灰 (基本層序V層)。天井崩落土。
- II 牛の脛ローム層 (基本層序VI層)。天井崩落土。
- III 暗褐色ローム層 (基本層序VII層)。天井崩落土。
- IV 褐色ローム (基本層序VIII層) 主体土。天井崩落土。
- V 褐色ローム層 (基本層序IX層)。天井崩落土。
- VI 褐色ローム層 (基本層序X層)。奥壁、天井崩落土。

第9図 A区地下式横穴墓2実測図 (S= 1/30) 遺物出土状況実測図 (S= 1/5)



第10図 A区地下式横穴墓2出土遺物実測図 (S= 2/3・1/3)

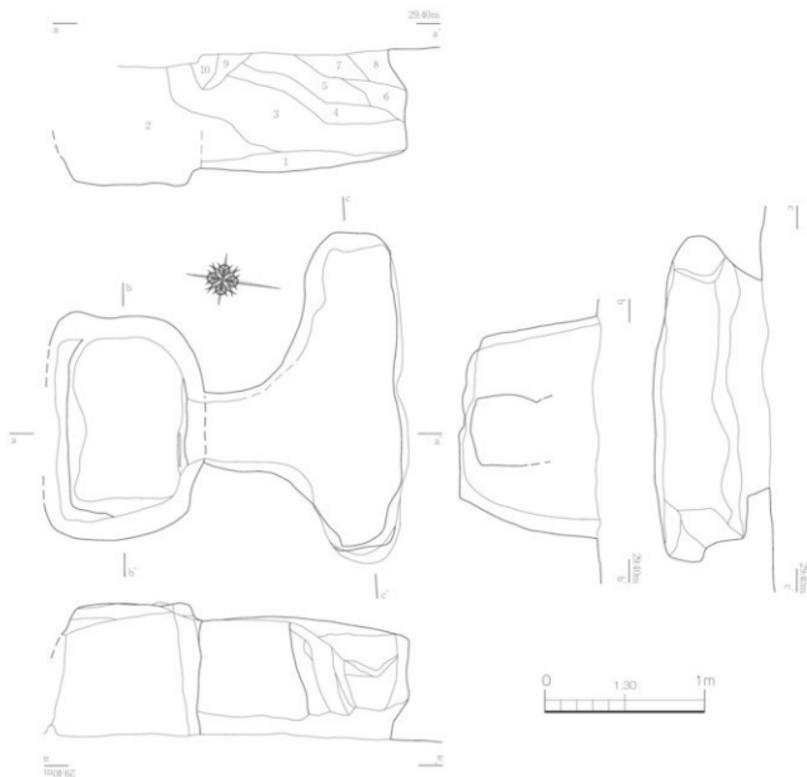
0.87mを測る。竪坑床面は平坦で、羨門から玄室部よりも一段低い。羨門部側面は直線的に立ち上がる形状を呈する。玄室構造は平入りで、平面形は長軸2.13m、短軸0.72mの隅丸方形を呈する。天井部は西側面でドーム状に立ち上がるが、東側面では段状に作出されている。埋土の観察から竪坑埋土の流入後天井部が崩落したと考えられる。遺物は出土しなかった。

第5節 古代以降の遺構と遺物

第1項 竪穴住居

竪穴住居1 (第12～14図) A区中央部で検出された。平面形は一辺約3.2mのいびつな隅丸方形を呈する。住居内で柱穴は確認されなかった。地山ブロックを含む暗褐色土で貼床を形成している。中央部のやや東側で土器埋設炉が2基隣接して検出された。西側埋設炉は42と43の破片を組み合わせて埋設しており、東側埋設炉は44の甕の胴下半部と口縁部を打ち欠いたものを使用している。埋土の堆積状況から住居廃絶後に埋め戻されたと考えられる。

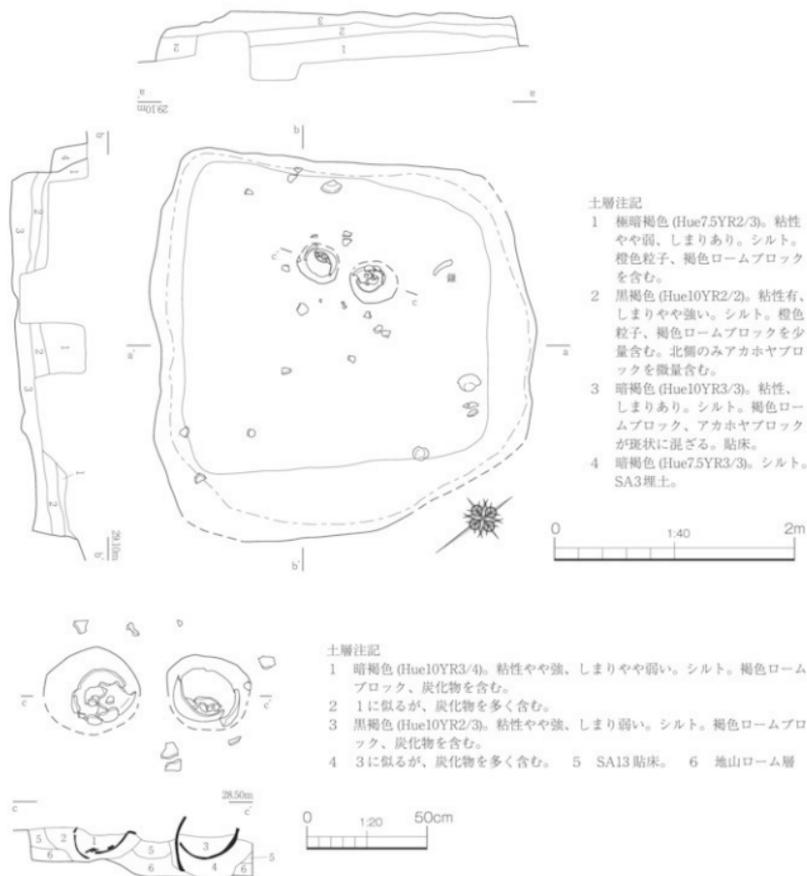
遺物は埋土中と床面から多量に出土している。42～44は土器埋設炉に設置された甕である。42はく字に強く屈曲する口縁部を有し、内面に斜位のヘラケズリが施される。43は豊後大分系



土層注記

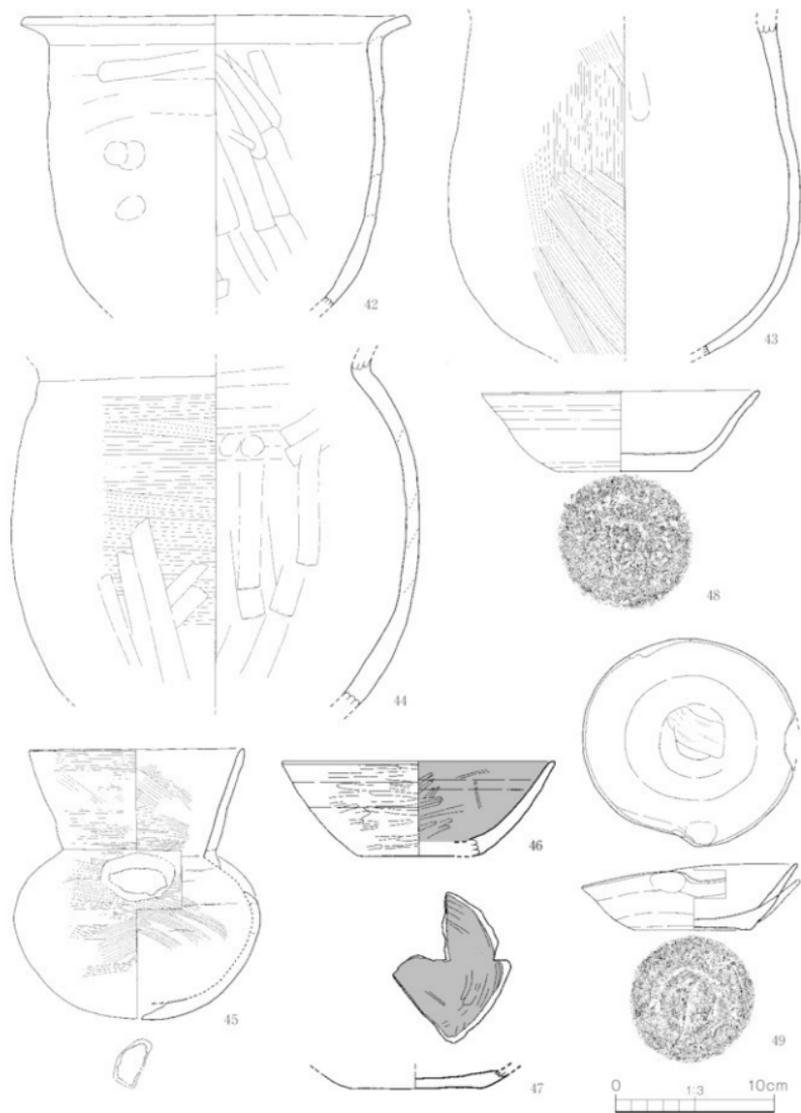
- 1 にぶい黄褐色 (Hue10YR4/3)、粘性やや弱、しまりやや強い、砂混シルト。小林降下軽石を含む。天井剥離堆積土。
- 2 にぶい黄褐色 (Hue10YR5/4)、粘性あり、しまり弱い。ローム。アカホヤ下ローム層に類似するが、小林降下軽石、牛の脛ブロックを微量含む。
- 3 黒色 (Hue10YR2/2)、軟質。シルト。アカホヤ粒子を微量含む。黒ボク土に類似。
- 4 暗褐色 (Hue10YR2/3)、粘性、しまりやや弱い、砂混シルト。小林降下軽石、褐色ロームブロックを含む。天井剥離堆積土。
- 5 黒褐色 (Hue10YR2/2)、粘性、しまりやや弱い、砂混シルト。アカホヤ粒子を少量含む。
- 6 黒褐色 (Hue10YR2/3)、粘性、しまりやや弱い。砂混シルト。アカホヤ粒子を少量含む。
- 7 暗褐色 (Hue10YR3/3)、粘性やや弱、しまり弱。シルト。アカホヤ粒子を少量含む。陥没後の流入土。
- 8 褐色 (Hue10YR4/4)、粘性やや弱、しまり弱。シルト。アカホヤ粒子を少量含む。陥没後の流入土。
- 9 にぶい黄褐色 (Hue10YR4/3)、粘性、しまりやや弱い。シルト。溝道部崩落土。
- 10 にぶい黄褐色 (Hue10YR6/4)、軟質。シルト。アカホヤと黒色土の混合土。

第11図 A区地下式横穴墓3実測図 (S= 1/30)

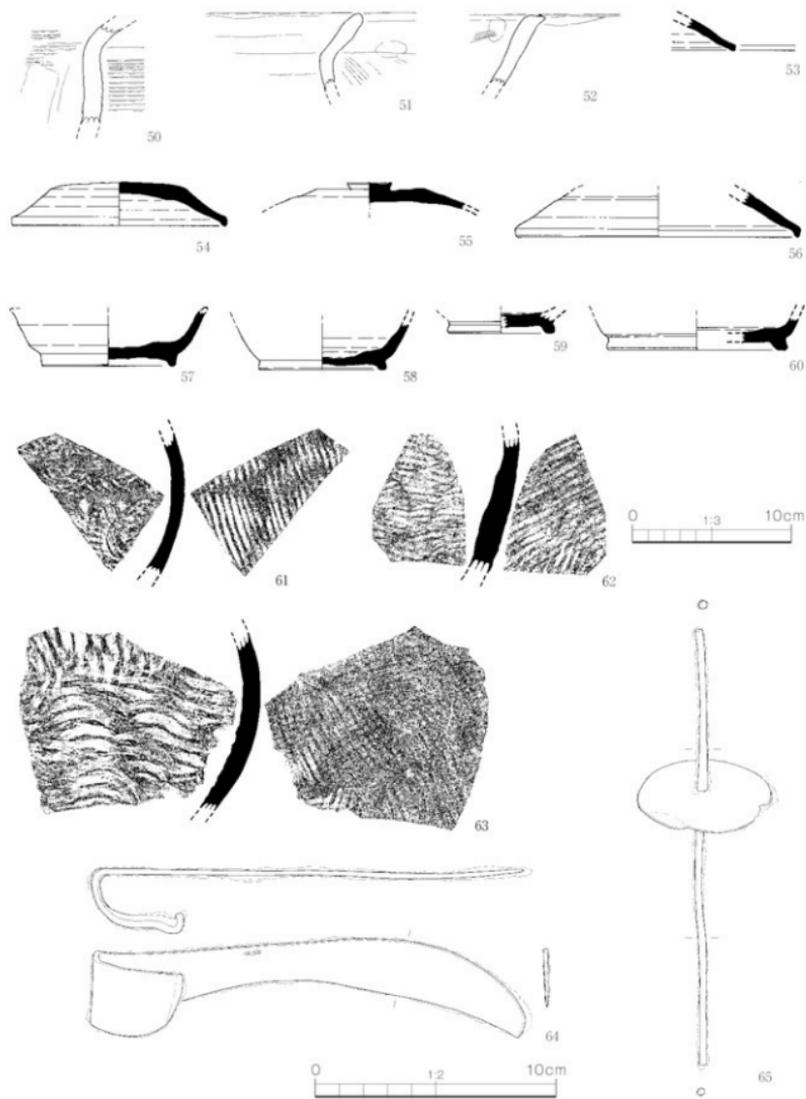


第12図 A区竪穴住居1実測図 (S= 1/40) 土器埋設炉実測図 (S= 1/20)

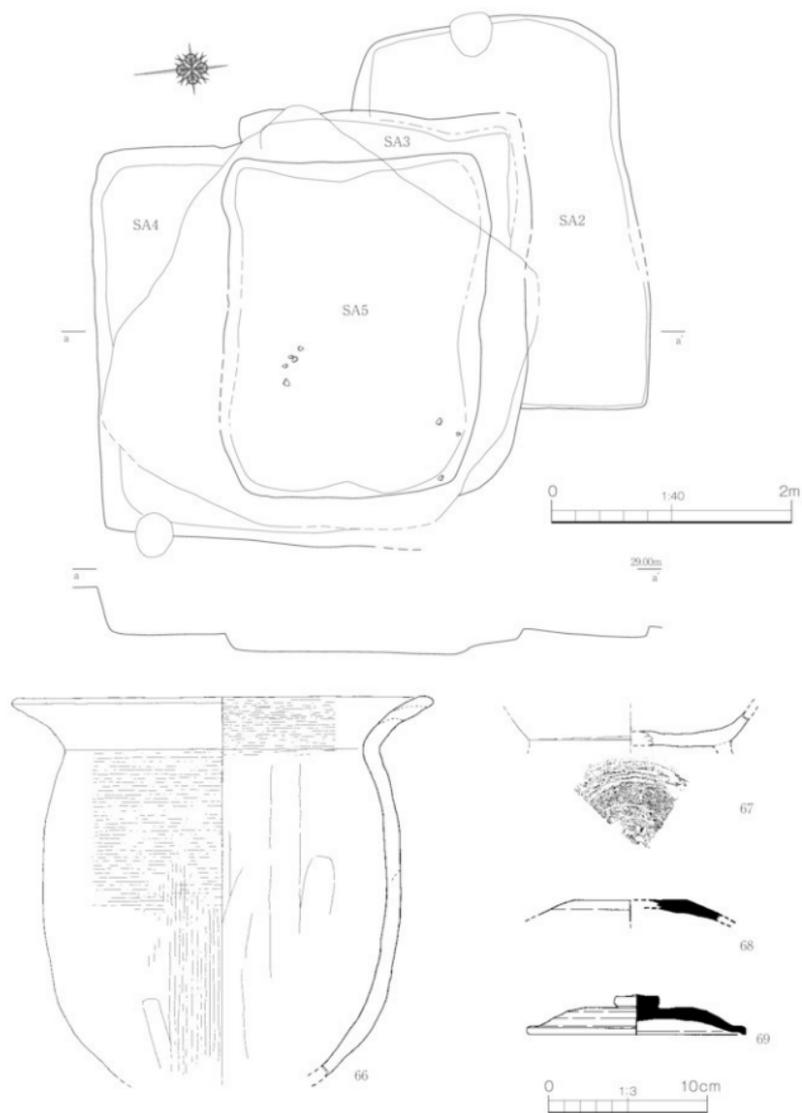
企球型甕である。下眼れ状の胴部形状を呈し、目の細かなハケメが施される。色調、胎土共に異質であり、搬入品とみられる。44は回転台成形で内面に縦位のヘラケズリを施す。45は小型壺である。胴部と底部に穿孔がみられ、胴部は内側→外側へ、底部は外側→内側へ穿孔している。色調は明赤褐色で、精製された胎土を使用している。46～49は土師器環である。46と47は黒色土器A類の環であり、底部はヘラ切りで器面にミガキ調整が施されている。49は口縁部の一部をユビオサエにより注口状に成形している。50～52は甕である。51は豊後大分系企球型甕の口縁部で、43と同一個体の可能性がある。53～56は須恵器蓋である。54と56は端部が



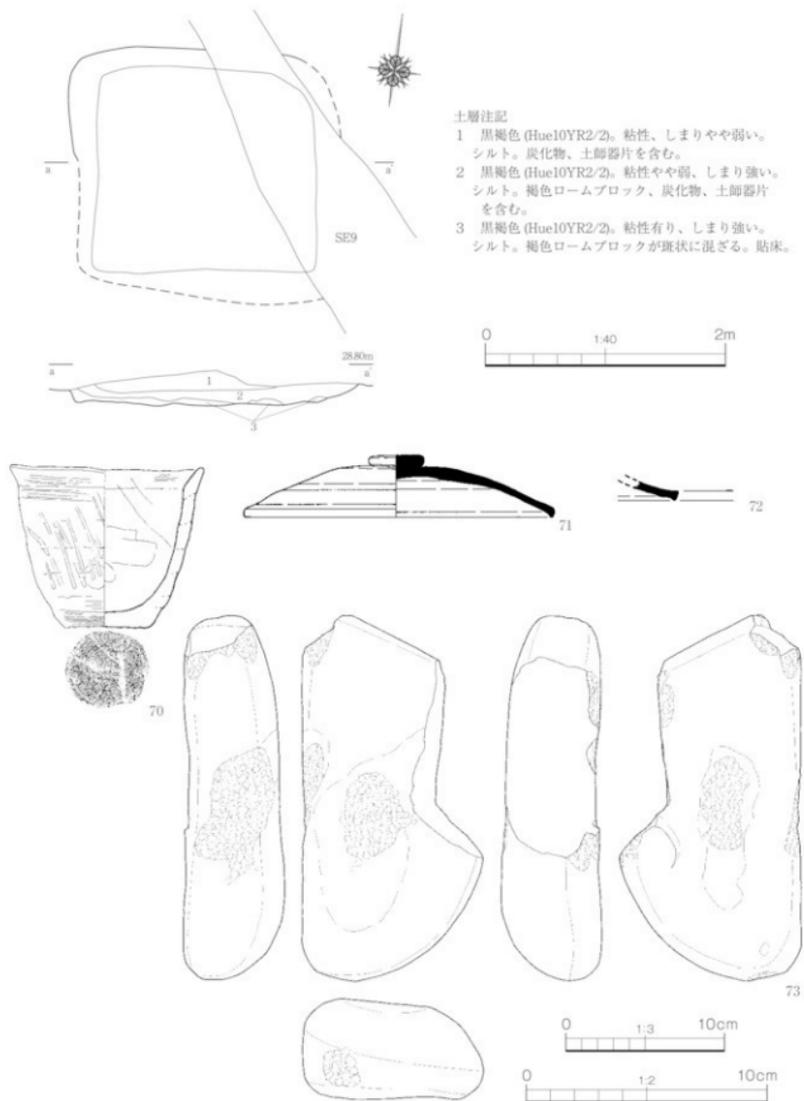
第13図 A区竪穴住居1出土遺物実測図① (S= 1 / 3)



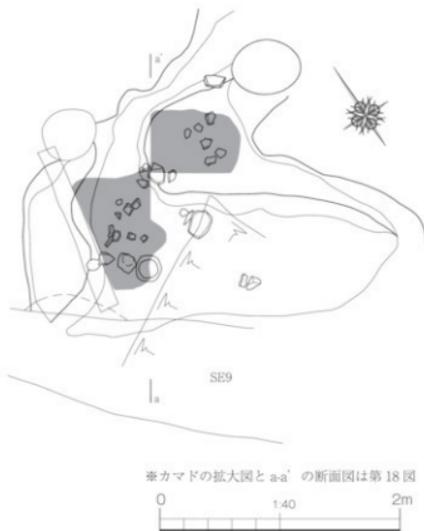
第14図 A区竪穴住居1出土遺物実測図② (S= 1 / 3)



第15図 A区竪穴住居2・3・4・5実測図 (S= 1/40)、出土遺物実測図 (S= 1/3)



第16図 A区竪穴住居6実測図 (S= 1/40)、出土遺物実測図 (S= 1/3・S= 1/2)



第17図 A区竪穴住居7実測図 (S=1/40)

※カマドの拡大図とa-a'の断面図は第18図

の出土がみられる。66は土師器甕である。竪穴住居1、3、5出土の破片が接合した。回転台成形で内面に縦位のヘラケズリを施す。67は竪穴住居3出土の土師器甕である。底部ヘラ切り、あるいはヘラケズリ後に高台を貼り付けるものである。68～69は竪穴住居3出土の須恵器蓋である。69は宝珠つまみを有し、端部がわずかに下方に拡張するものである。

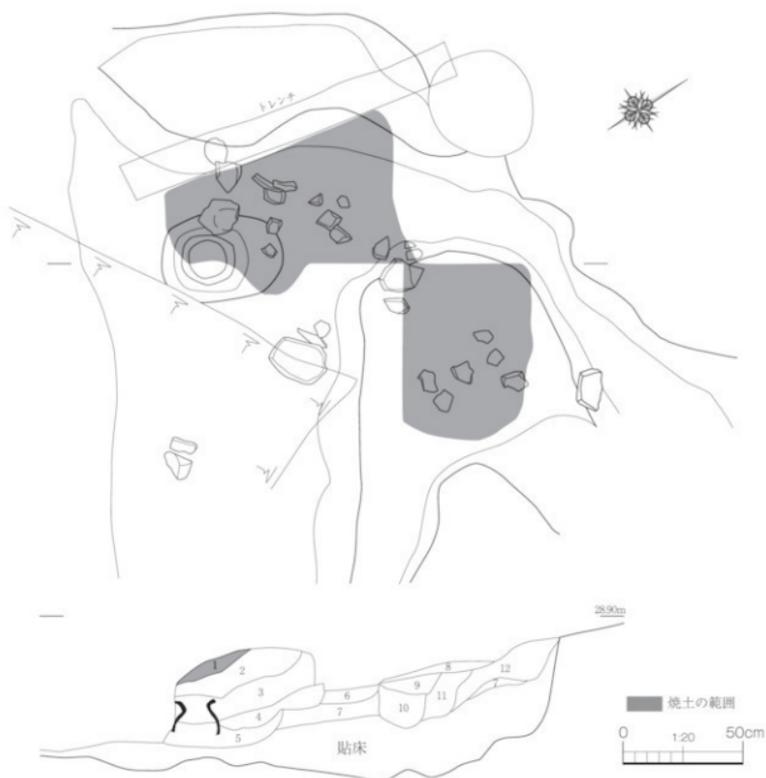
竪穴住居6 (第16図) A区南部で検出された。溝状遺構9により一部を削平されている。平面形は一辺約2.2mの隅丸方形を呈し、部分的に地山ブロックを含む暗褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。埋土の堆積状況がレンズ状を呈することから、住居廃絶後に自然埋没したと考えられる。

遺物は床面から土師器甕、須恵器蓋、敲石が出土している。70は土師器の小型甕である。外底面に木葉痕を残すもので、熱を受け赤変している。71～72は須恵器蓋である。73は砂岩製敲石である。一部欠損しているが、縦長の円礫を素材としている。

竪穴住居7 (第17～19図) A区南部で検出された。住居中央部を溝状遺構9に破壊されており、それより南側は削平のため失われている。平面形は一辺約3.3mの隅丸方形を呈すると考えられ、地山ブロックを含む暗褐色土により貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。住居北西隅にカマドが設置されている。カマドは重機による表土剥ぎの際に一部破壊されたこともあり、上部構造については不明瞭であるが、焼土とカマド本体に用いられたにぶい褐色粘土が広い範囲に広がることから、住居廃絶時にカマドの上部構造は破壊されたものと考えられる。ただし、支脚として設置された土師器甕は機能面にそのまま残されていた。

わずかに下方に拡張する。57～60は高台付の甕である。いずれも断面台形の高台を有する。61～63は須恵器甕である。胴部片であり全体の形状は判然としにくい。64は鉄製鎌である。基部を折り曲げることで木柄の挿入部を作出している。65は鉄製紡錘車である。
竪穴住居2～5 (第15図) A区中央部で竪穴住居1に重複する形で検出された。掘り方面まで掘削した段階で検出したため、先後関係については不明瞭である。いずれも隅丸方形あるいは長方形の平面形を呈し、住居の軸方向が揃っていることから、比較的短期間での建て替えが想定される。いずれの住居も地山ブロックを含む暗褐色土で貼床が形成されている。住居内で柱穴は検出されなかった。

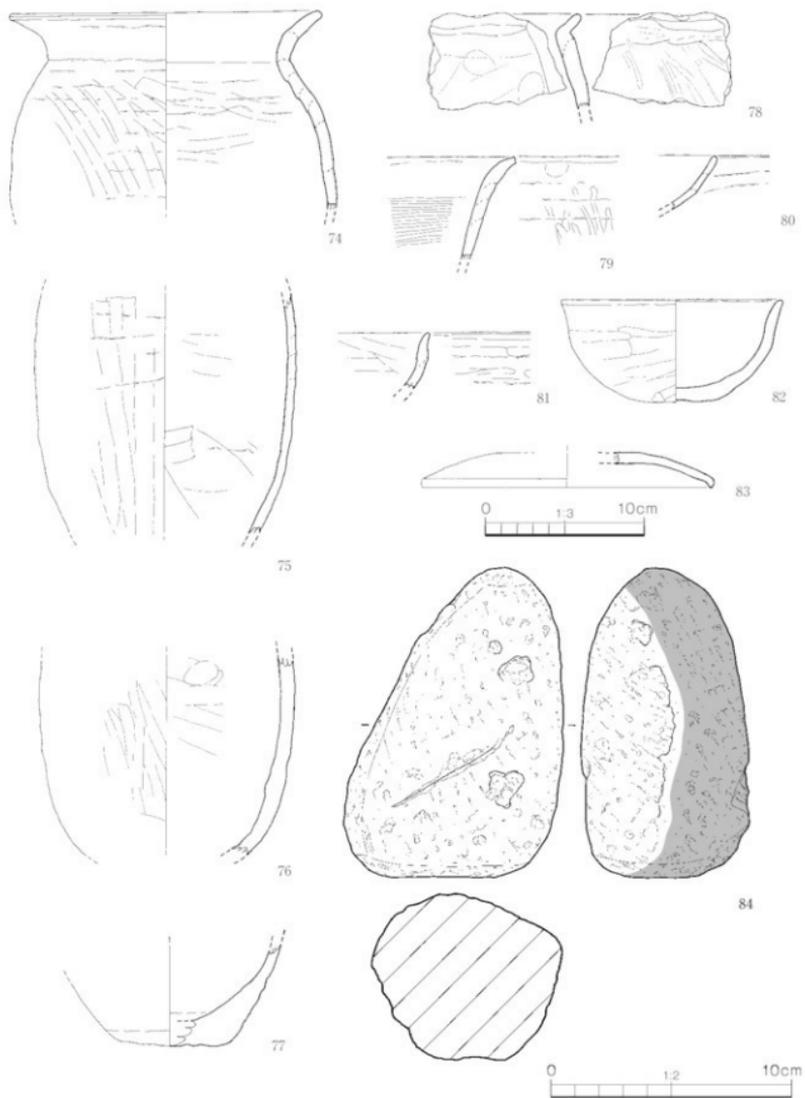
遺物の出土は少なく小破片ばかりであるが、竪穴住居3でまとまった遺物



土層注記

- 1 にぶい赤褐色 (Hue5YR4/4)。粘性なし、しまり強い。焼土。
- 2 極暗赤褐色 (Hue2.5YR2/4)。粘性弱、しまり強い。シルト。焼土ブロックを含む。
- 3 褐色 (Hue7.5YR4/4)。粘性弱、しまりやや強い。砂質土。焼土粒子、炭化物を含む。
- 4 暗褐色 (Hue7.5YR3/3)。粘性やや弱、しまりやや強い。シルト。焼土ブロック、炭化物を含む。
- 5 極暗褐色 (Hue7.5YR3/2)。粘性、しまりあり。シルト。焼土ブロック、炭化物を含む。
- 6 黒褐色 (Hue7.5YR3/2)。粘性やや弱、しまりあり。シルト。
- 7 1層がブロック状に混ざる層。粘性弱、しまりあり。
- 8 黒褐色 (Hue7.5YR2/2)。粘性なし、しまり強い。シルト。硬化面。
- 9 暗褐色 (Hue10YR3/4)。粘性、しまりあり。シルト。焼土、炭化物、軽石を含む。
- 10 褐色 (Hue10YR4/6)。粘性やや強、しまりやや弱い。シルト。炭もしくは灰を筋状に含む。
- 11 暗褐色 (Hue10YR3/4)。粘性、しまりやや弱い。シルト。アカホヤブロック、焼土粒子を含む。
- 12 暗褐色 (Hue10YR3/3)。粘性あり、しまりやや弱い。シルト。焼土粒子、炭化物を含む。

第18図 A区竪穴住居7カマド実測図 (S= 1/20)



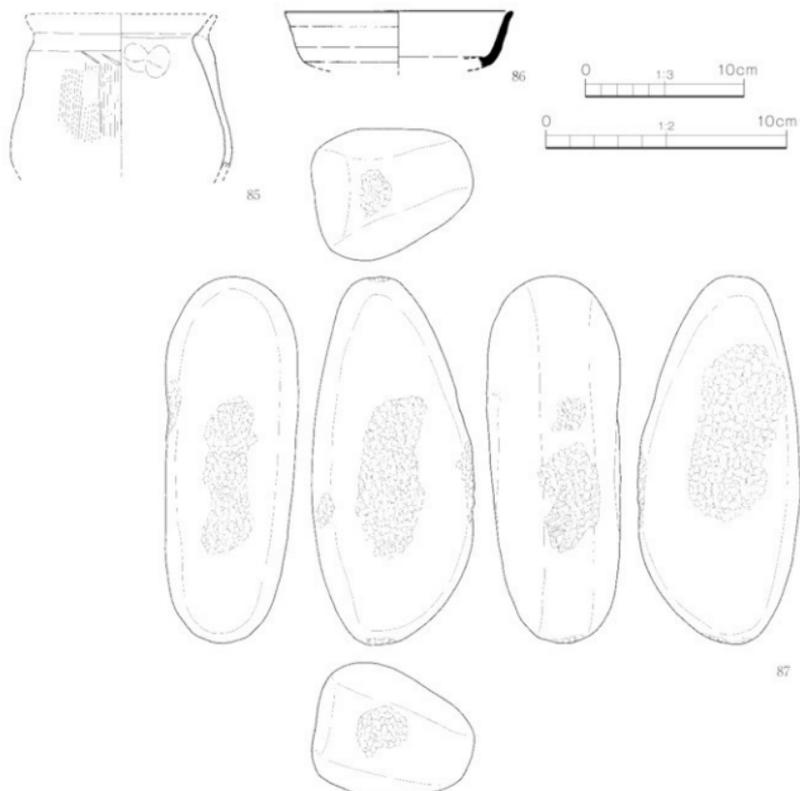
第19図 A区竖穴住居7出土遺物実測図 (S= 1 / 3)



第20図 A区竪穴住居8実測図 (S= 1/40)、炉実測図 (S= 1/20)

埋土の堆積状況から住居廃絶後に埋め戻されたと考えられる。

遺物はカマド周辺からまともに出てきている。74～79は土師器甕である。74はカマドに設置されていたもので、胴下半部が打ち欠かれている。頸部が強く締まる形状を呈し、粘土紐接合痕を顕著に残している。77は厚みのある底部で、被熱により器表面の剥離が激しいが、レンズ状の平底を呈するものである。79は甕の可能性もある口縁部片である。80～82は土師器坏である。81は口縁部がわずかに外反する口縁部で、外面に横位の粗雑なミガキが施される。82は口縁部が外反する坏で、碗状の胴部形状を呈する。83は土師器蓋である。84は軽石製支脚である。加工痕は認められないが、背面が熱を受けている。

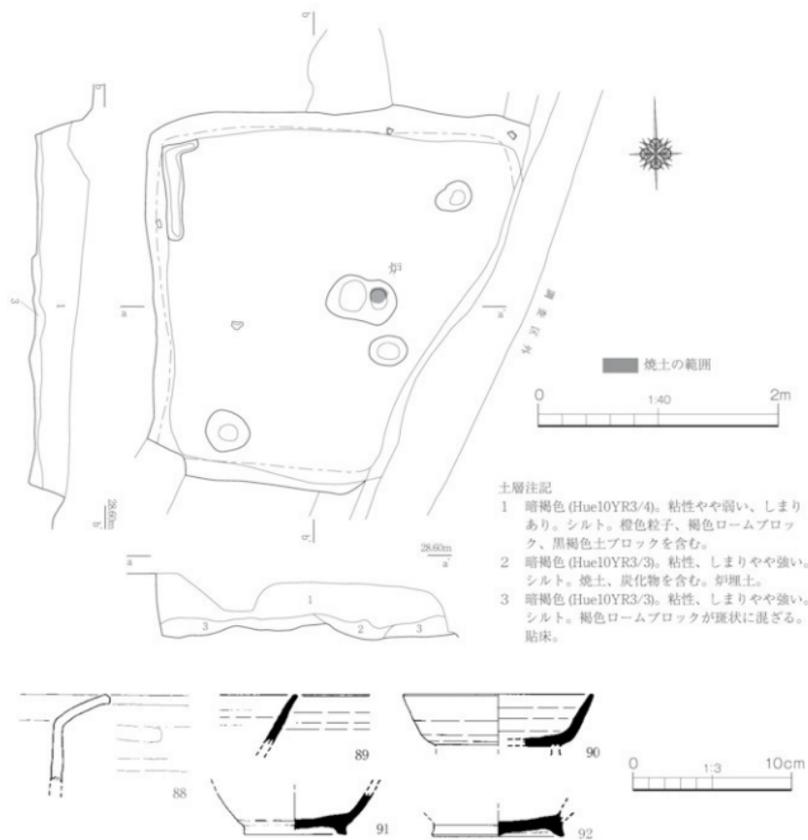


第21図 A区竪穴住居8出土遺物実測図 (S= 1/3・S= 1/2)

竪穴住居8 (第20～21図) A区東部で検出された。南西隅が掘乱により失われている。平面形は南北2.62m×東西3.18mの隅丸方形を呈する。住居内で柱穴は検出されなかった。地山ブロックを含む黄褐色土で貼床が形成されている。住居中央部やや南西寄りに地床炉が設置されている。

遺物は床面と炉上部の焼土中から少量出土している。85は土師器の小型甕である。形態と胎土が異質であり、他地域からの搬入品と考えられる。豊後大分系企球型甕の一種か。86は須恵器の坏である。87は砂岩製の敲石である。熱を受け全体が赤変している。

竪穴住居9 (第22図) A区東端部で検出された。溝状遺構6と8に先行する。平面形は南北3.2m×東西約3mの隅丸方形を呈し、南西隅の一部は調査区外に広がると考えられる。住居

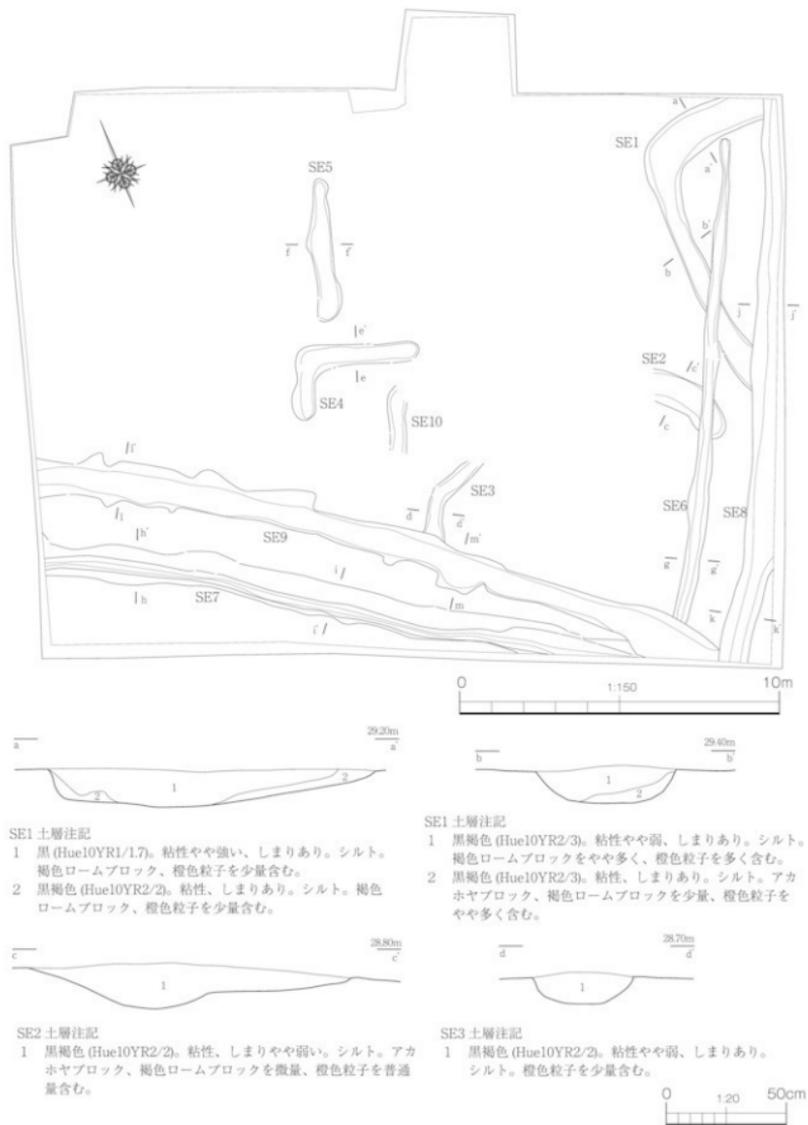


第22図 A区竪穴住居9実測図 (S= 1/40)、出土遺物実測図 (S= 1/3)

内の北東隅と南西隅に柱穴が検出された。住居中央部で地床炉が検出されている。地山ブロックを含む暗褐色土で貼床が形成されており、掘り方面では壁帯溝と思われる小溝が住居北西隅で検出されている。

遺物は埋土中及び床面から出土しているが、いずれも小破片である。88は土師器の甕である。薄手で口唇部は丸みを帯びた形状を呈する。89～92は須恵器の坏である。89と90は胴部から口縁部にかけて直線的に開く形状を呈する。91は椀状の器形を呈し、断面台形の高台を有する。92は断面三角形の高台を有するものである。

竪穴住居10・11・12 (第4図) いずれもA区南～南西部で検出された。検出面でわずかに



SE1 土層注記

- 1 黒褐色 (Hue10YR1/1.7). 粘性やや強い、しまりあり。シルト。褐色ロームブロック、橙色粒子を少量含む。
- 2 黒褐色 (Hue10YR2/2). 粘性、しまりあり。シルト。褐色ロームブロック、橙色粒子を少量含む。

SE1 土層注記

- 1 黒褐色 (Hue10YR2/3). 粘性やや弱、しまりあり。シルト。褐色ロームブロックをやや多く、橙色粒子を多く含む。
- 2 黒褐色 (Hue10YR2/3). 粘性、しまりあり。シルト。アカホヤブロック、褐色ロームブロックを少量、橙色粒子をやや多く含む。

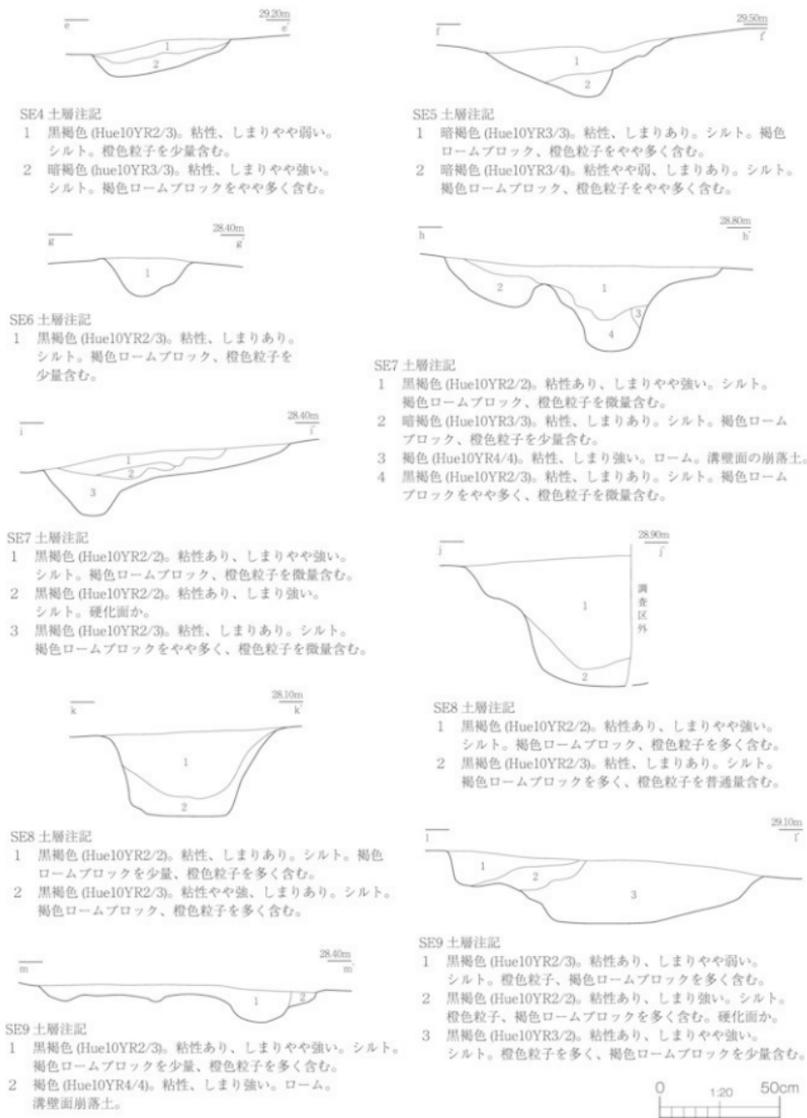
SE2 土層注記

- 1 黒褐色 (Hue10YR2/2). 粘性、しまりやや弱い。シルト。アカホヤブロック、褐色ロームブロックを微量、橙色粒子を普通量含む。

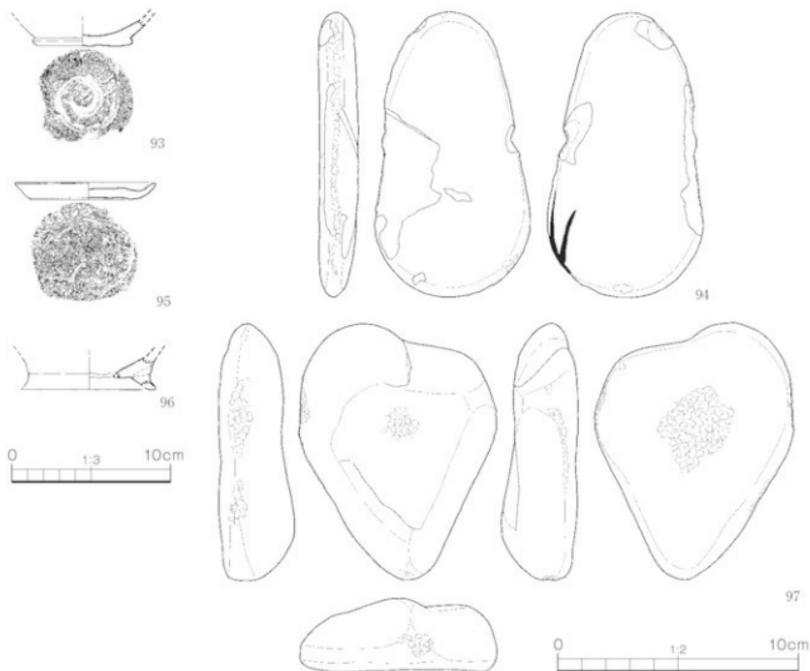
SE3 土層注記

- 1 黒褐色 (Hue10YR2/2). 粘性やや弱、しまりあり。シルト。橙色粒子を少量含む。

第23図 A区アカホヤ火山灰層上面溝状遺構(古代・中世)実測図 (S = 1/150)、土層実測図 (S = 1/20)



第24図 A区アカホヤ火山灰層上面溝状遺構(古代・中世)土層実測図② (S= 1/20)



第25図 A区溝状遺構出土遺物実測図 (S=1/3・S=1/2)

土質の異なるプランがあり、掘削を行った結果住居の掘り方部分と判断されたものである。残存状況が悪く規模は不明瞭であるが、いずれも方形を基調とした平面形を呈すると考えられる。図化に耐えうる遺物は出土していない。

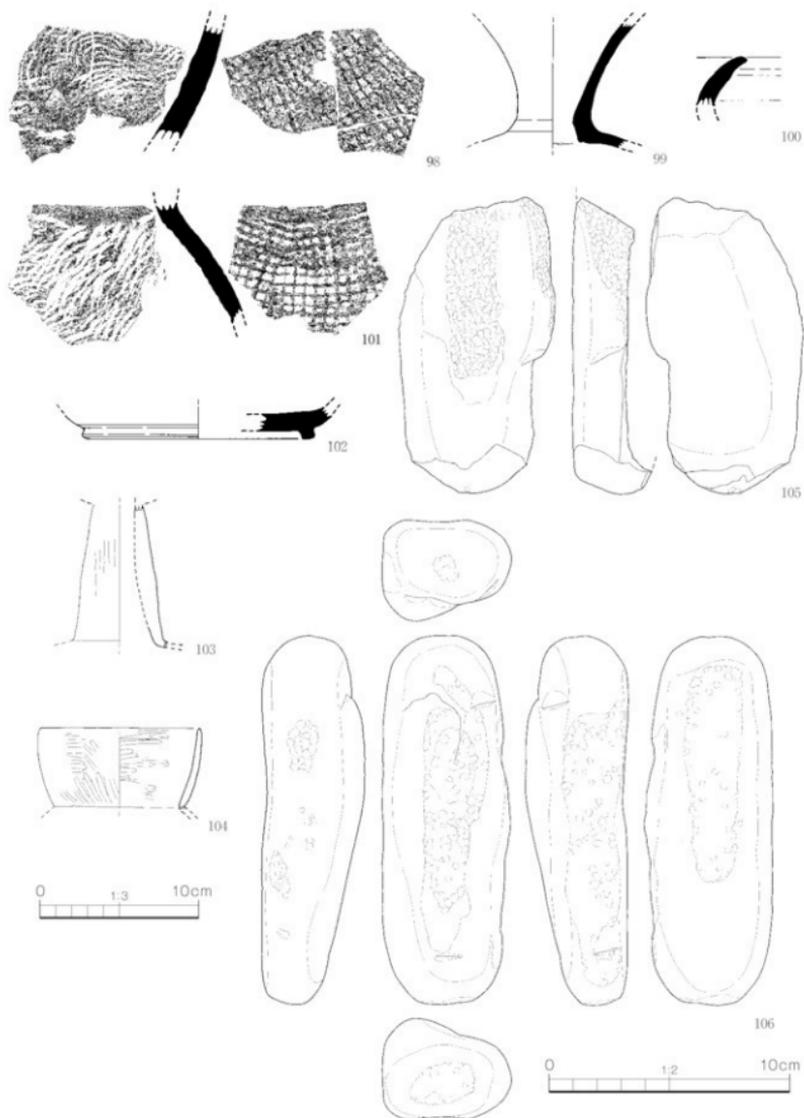
第2項 溝状遺構（第23～25図）

アカホヤ火山灰層上面で10条の溝状遺構が検出された。埋土には橙色粒子（パミス）を多量に含むものと少量しか含まないものがあり、切り合い関係から前者の方が後出する。

溝状遺構 1 A区北東隅で検出された。溝状遺構 6 と 8 に先行する。幅1.36m、深さ0.16mで断面は台形状を呈する。方形に廻ることから、周溝状遺構の可能性もある。

溝状遺構 2 A区東側で検出された。溝状遺構 6 と 堅穴住居 8、9 に先行する。幅1.34m、深さ0.2mで断面はいびつなU字状を呈する。

溝状遺構 3 A区南側で検出された。溝状遺構 9 に先行し、堅穴住居 2 より後出する。幅0.42m、深さ0.14mで断面はU字状を呈する。



第26図 A区その他遺構出土遺物実測図 (S= 1/3・S= 1/2)

溝状遺構4 A区中央部で検出された。西側ではほぼ直角に曲がっている。竪穴住居4に先行し、地下式横穴墓2より後出する。幅0.58m、深さ0.15mで断面はU字状を呈する。

溝状遺構5 A区北側で検出された。幅0.77m、深さ0.25mで断面はV字状を呈する。

溝状遺構6 A区東側で検出された。溝状遺構9に先行し、溝状遺構1、2、竪穴住居9より後出する。幅0.37m、深さ0.16mで断面はU字状を呈する。遺物は糸切り底の土師器皿が出土しており、この溝は中世期に掘削された可能性が考えられる。

溝状遺構7 A区南側で検出された。東側と西側は調査区外に広がっている。溝状遺構9に先行し、竪穴住居6、10、12より後出する。幅1.17m、深さ0.36mで断面は北側にテラス状の段を有する台形状である。遺物は土師器坏と敲石が出土している。93は円盤状高台を有する土師器坏である。94は砂岩製の敲石で、扁平な円礫の端部に敲打痕が認められる。

溝状遺構8 A区東側で検出された。調査区外に広がっている。溝状遺構1、竪穴住居9より後出する。調査区東南部で溝状遺構9と接続するが、酷似した埋土であり先後関係は不明瞭である。あるいは同一の溝である可能性も考えられる。幅0.76m、深さ0.36mで断面台形を呈する。遺物は土師器坏が出土している。96は底面に穿孔の様な痕跡が認められるが、小破片であり詳細は不明である。

溝状遺構9 A区南側で検出された。溝状遺構3、6、7、竪穴住居6、7、10より後出する。幅1.29m、深さ0.27mで断面は台形状を呈する。部分的であるが北側にテラス状の段を有する。遺物は砂岩製の敲石(97)が出土している。

第6節 その他の遺構と遺物(第26図)

上記の他、柱穴や土坑からも遺物が出土している。98～99は土坑25出土の須恵器である。99は長胴壺である。頸部がラッパ状に開く形状を呈する。100は柱穴108出土の須恵器壺あるいは甕口縁部である。101は柱穴68出土の須恵器坏である。103は柱穴67、104は土坑24出土の古墳時代土師器である。103は布留式系高坏で、エンタシス状の脚台を呈する。104は小型壺である。頸部から口縁部が内湾する形状を呈し、外面に丁寧なミガキが施されている。105は柱穴84出土の砂岩製敲石である。106は住居群一括として取り上げた砂岩製敲石である。105と106は縦長の自然礫を素材としたもので、ほぼ全ての面に敲打痕が認められる。竪穴住居出土の敲石と石材、形態共に共通することから、これと同時期のものと考えられる。詳細は各観察表を参照されたい。

第1表 出土土器観察表①【A区】

掲載頁 図番号	遺構等 番号	道標等 番号	遺物 種別	法量 cm() : 個元	口径	底径	器高	色調		焼成	調整					備考	実測 番号			
								外面	内面		外面	内面	A	B	C			D	E	
p.11 第8図	41	地下式 灰穴式2	土師器 壺	—	—	—	—	5YR6/6	5YR8/2 灰白	良好	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	29	
			土師器 壺	(238)	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	良好	ユビオサエ ナデ	ヨコナデ 縦位ケズリ	3	1	—	—	—	—	外周塚内着 埋設あり	12
p.16 第13図	42	竪穴住 居1内 部1	土師器 壺	—	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	良好	縦位・斜位 ハケメ	ユビオサエ ナデ	1.5	—	—	—	—	—	—	13
			土師器 壺	—	—	—	—	10YR7/4 10YR6/4 にぶい黄褐色	2.5YR5/2 7.5YR5/4 にぶい黄褐色	良好	回転ナデ→ ナデ	ナデ 縦位ケズリ	2	1	—	—	—	—	—	14
	44	竪穴住 居1内 部2	土師器 壺	—	—	—	—	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	良好	ハケメ	ハケメ	—	—	—	—	—	—	—	15
			土師器 壺	(168)	—	—	—	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR3/2 黒褐色	良好	回転ナデ→ ミガキ	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	17
p.17 第14図	50	竪穴住 居1	土師器 壺	—	—	—	—	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐色	良好	回転ナデ→ ミガキ	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	16
			土師器 壺	(172)	8.1	5.1	—	7.5YR5/2 にぶい黄褐色	5YR6/6 褐色	やや 良好	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	10
	51	竪穴住 居1-3	土師器 壺	—	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	回転ナデ	ヨコナデ 縦位ケズリ	4	—	—	—	—	—	—	11
			土師器 壺	—	—	—	—	5YR6/6 褐色	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	やや 良好	ハケメ ユビオサエ	ヨコナデ	—	3	—	—	—	—	—	8
p.18 第15図	53	竪穴住 居1 掘床内	土師器 壺	—	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良好	ナデ	ナデ	1.5	—	—	—	—	—	—	18
			土師器 壺	—	—	—	—	5Y5/1 2.5Y6/2 灰黄	5Y5/1 灰	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	54
	54	土師器 壺	土師器 壺	(133)	—	2.7	—	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	堅緻	回転ナデ 回転ナデ ナデ	回転ナデ 回転ナデ ナデ	—	1	—	—	—	—	—	53
			土師器 壺	—	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐色	5YR7/1 明褐色	堅緻	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	—	—	—	—	50
	56	土師器 壺	土師器 壺	(176)	—	—	—	5Y5/1 灰	5Y4/1 灰	堅緻	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	—	1	—	—	—	—	—	49
			土師器 壺	—	—	—	—	7.5YR6/1 灰白	2.5Y6/2 灰白	堅緻	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	—	—	—	—	57
	58	土師器 壺	土師器 壺	—	—	—	—	5Y7/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	56
			土師器 壺	—	—	—	—	2.5Y6/2 灰黄	10YR7/2 にぶい黄褐色	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	59
	60	土師器 壺	土師器 壺	—	—	—	—	5Y7/1 灰白	2.5Y6/2 灰黄	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	60
			土師器 壺	—	—	—	—	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	堅緻	タタキ→ナデ	当て具板→ ナデ	—	—	—	—	—	—	—	52
62	土師器 壺	土師器 壺	—	—	—	—	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	堅緻	タタキ	当て具板	—	—	—	—	—	—	—	51	
		土師器 壺	—	—	—	—	5YR7/1 明褐色	5YR6/1 褐色	堅緻	タタキ	当て具板	—	—	—	—	—	—	—	58	
p.19 第16図	67	竪穴住 居1-3-5	土師器 壺	(252)	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	7.5YR8/2 灰白	良好	回転ナデ→ ナデ	ヨコナデ 縦位ケズリ	3	—	—	—	—	—	—	20
			土師器 壺	—	—	—	—	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良好	回転ナデ	ナデ	1	—	—	—	—	—	—	19
	68	土師器 壺	土師器 壺	—	—	—	—	10YR6/1 褐色	10YR5/1 褐色	堅緻	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	—	1	—	—	—	—	—	62
			土師器 壺	(136)	—	2.65	—	10YR5/1 褐色	5Y5/1 灰	堅緻	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	—	—	—	—	—	—	—	63
p.19 第16図	70	竪穴住 居6	土師器 壺	12	5	10.3	—	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR4/3 褐色	良好	ユビオサエ→ ヨコナデ→斜位 ナデ	ナデ	2	1	—	—	—	—	—	4
			土師器 壺	—	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐色	2.5Y6/2 灰白	堅緻	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	—	1	—	—	—	—	—	47
			土師器 壺	—	—	—	—	10YR5/1 褐色	2.5Y5/1 黄褐色	堅緻	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	—	1	—	—	—	—	—	48

※胎土 A：宮崎小石 B：長石・石英 C：輝石・角閃石 D：雲母 E：黒炭

第2表 出土土器観察表②【A区】

採取目録 番号	遺構等 番号	種類 器種	法量 cm()	元 口径	底高	色調		焼成	調整					備考	実測 番号				
						外面	内面		外	内	A	B	C			D	E		
p.22 第2区	74	土師器 壺	19	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	良好	斜位ナデ ユビオサエ	ヨコナデ	2 多	0.5 多	—	—	—	—	被熱 カマド設置	35	
		土師器 壺	—	—	—	7.5YR6/4 10YR6/4 にふい黄橙	10YR6/3 にふい黄橙	良好	縦位ナデ	横位ケズリ	2 少	1 —	—	—	—	—	被熱	32	
	76	土師器 壺	—	—	—	5YR5/4 にふい赤褐	7.5YR5/4 にふい褐	良好	縦位ナデ	ナデ ユビオサエ	3 多	2 —	—	—	—	—	被熱 実測と同一個体	30	
		土師器 壺	—	6.6	—	10YR7/1 灰白	2.5Y4/1 黄灰	良好	ナデ?	ナデ	3 多	2 —	—	—	—	—	被熱	31	
	78	土師器 壺	—	—	—	7.5YR6/3 にふい褐	5YR7/2 明褐灰	良好	斜位ナデ ユビオサエ	横位ナデ ユビオサエ	3 多	2 微	—	—	—	—	被熱 実測と同一個体	30	
		土師器 壺	—	—	—	10YR6/4 にふい黄橙	10YR6/4 にふい黄橙	良好	ヨコナデ→ 縦位ミガキ	ヨコナデ→ 横位ハタメ	1 少	1 —	—	—	—	—	—	38	
	80	土師器 壺	—	—	—	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	やや 良	ナデ	ナデ?	0.5 —	—	—	—	—	—	—	—	42
		土師器 壺	—	—	—	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にふい橙	良好	ヨコナデ→ ミガキ	ヨコナデ ナデ	0.5 —	—	—	—	—	—	—	—	37
	82	土師器 壺	(13.6)	3.2	(6.5)	7.5YR6/3 にふい褐	7.5YR7/2 明褐灰	良好	横位ナデ	ナデ	—	0.5 多	—	—	—	—	—	—	30
		土師器 壺	(18)	—	—	2.5YR7/3 淡赤褐	5YR6/6 橙	やや 良	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—	36
	85	土師器 壺	(11.8)	—	—	5YR5/4 にふい赤褐	5YR5/4 にふい赤褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	—	1.5 —	—	—	—	—	—	—	21
		須恵器 壺	(14.2)	—	—	3H/1 灰	3H/1 灰	やや 良	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	—	61
	p.23 第3区	88	土師器 壺	—	—	—	7.5YR6/4 にふい橙	7.5YR6/4 にふい橙	良好	ナデ	ナデ	2 多	—	—	—	—	—	—	2
土師器 壺			—	—	—	2.5Y6/1 黄灰	5Y7/1 灰白	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	43	
90		須恵器 壺	(11.8)	—	—	5YR7/1 明褐灰	5YR7/1 明褐灰	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	36	
		須恵器 壺	(6.4)	—	—	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にふい黄橙	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	44	
92		須恵器 壺	(8.2)	—	—	10YR5/3 にふい黄橙	10YR5/3 にふい黄橙	やや 良	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	45	
		土師器 壺	(5.4)	—	—	7.5YR6/4 にふい橙	5YR6/6 橙	良好	回転ナデ	回転ナデ	1 微	—	—	—	—	—	—	23	
95		土師器 壺	(8.7)	(6.2)	(1.1)	5YR6/6 橙	2.5YR7/3 淡赤褐	良好	回転ナデ	回転ナデ→ ナデ	1 少	0.5 —	—	—	—	—	—	26	
		土師器 壺	—	—	—	10YR5/3 にふい黄橙	10YR5/3 にふい黄橙	良好	回転ナデ	回転ナデ	—	0.5 —	—	—	—	—	—	24	
p.29 第5区		98	須恵器 壺	—	—	—	2.5Y7/3 10YR6/3 にふい黄橙	10YR6/3 にふい黄橙	不貞	タタキ	当て具痕	—	1 少	—	—	—	—	—	64
			土師器 壺	—	—	—	2.5Y7/3 淡黄	5YR4/1 灰黄 灰褐	やや 良	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	65
	99	須恵器 壺	—	—	—	2.5Y7/3 淡黄	5YR4/1 灰黄 灰褐	やや 良	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	—	—	—	—	65	
		土師器 壺	—	—	—	2.5Y6/2 灰黄	10YR4/1 褐灰	堅緻	回転ナデ	回転ナデ	—	—	—	1 微	—	—	—	70	
100	土師器 壺	—	—	—	2.5Y7/3 淡黄	2.5Y6/2 灰黄	やや 良	タタキ→ナデ	当て具痕 回転ナデ	—	1 少	—	—	—	—	—	68		
	須恵器 壺	—	—	—	10YR6/1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	67		
101	土師器 高杯	—	—	—	5YR6/6 橙	7.5YR2/3 極暗赤褐	やや 良	不明	横位ケズリ	—	0.5 —	—	—	—	—	—	28		
	土師器 壺	(9.8)	—	—	10YR6/4 にふい黄橙	10YR5/2 にふい黄橙 灰黄褐	良好	ミガキ	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	22		

※胎土：A：宮崎小石 B：長石・石英 C：輝石・角閃石 D：雲母 E：黒染

第3表 出土石器計測分類表【A区】

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器 種	石材（色調）	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考	実測 No.		
p.13	第10図	6	地下式竈穴墓2	勾玉	青黒色	3.2	1.9	1.1	7.1	8と形似・法量類似	109		
		7	地下式竈穴墓2	勾玉	暗オリーブ灰色	3.3	2.1	1.0	7.7		110		
		8	地下式竈穴墓2	勾玉	青黒色	3.2	1.9	1.1	7.1	6と形似・法量類似	112		
		9	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.7	0.4	0.4	0.3		89		
		10	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.3	0.4	0.4	0.4		90		
		11	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.7	0.4	0.4	0.3		91		
		12	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.9	0.4	0.4	0.3		92		
		13	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.8	0.4	0.4	0.3		93		
		14	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.5	0.4	0.4	0.3		94		
		15	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.8	0.4	0.4	0.4		95		
		16	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.2	0.4	0.4	0.6		96		
		17	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.2	0.4	0.4	0.5		97		
		18	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.9	0.4	0.4	0.5		98		
		19	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.9	0.4	0.4	0.4		99		
		20	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.6	0.4	0.4	0.5		114		
		21	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.5	0.4	0.4	0.4		115		
		22	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.4	0.4	0.4	0.4		116		
		23	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.3	0.4	0.4	0.5		117		
		24	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.2	0.4	0.4	0.4		118		
		25	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.2	0.4	0.4	0.4		119		
		26	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	2.1	0.4	0.4	0.4		120		
		27	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.9	0.4	0.4	0.4		121		
		28	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.8	0.4	0.4	0.3		122		
		29	地下式竈穴墓2	管玉	オリーブ灰色	1.8	0.4	0.4	0.4		123		
		30	地下式竈穴墓2	管玉	暗青灰	2.4	0.5	0.5	0.7		124		
		31	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.8	0.6	0.5	0.2		100		
		32	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.9	0.5	0.6	0.2		101		
		33	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	1.1	0.7	0.6	0.5		102		
		34	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.9	0.5	0.5	0.3		103		
		35	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	1.0	0.6	0.7	0.2		104		
		36	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.8	0.6	0.6	0.2		105		
		37	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.9	0.7	0.6	0.2		106		
		38	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.8	0.6	0.6	0.2		107		
		39	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.9	0.7	0.6	0.2		108		
		40	地下式竈穴墓2	薬玉	緑黒色	0.7	0.5	0.6	0.1		113		
		p.19	第16図	73	竈穴住居6	磁石	砂岩	15.6	7.6	4.3	701.7	欠損	73
		p.22	第19図	84	竈穴住居7	支脚?	軽石	13.2	9.2	7.0	196.0	被災	79
		p.24	第21図	87	竈穴住居8	磁石	砂岩	15.7	6.8	5.6	828.6	被災未定	74
		p.28	第25図	94	溝状遺構7	磁石	砂岩	12.2	6.5	1.7	195.0		75
				97	溝状遺構9	磁石	砂岩	10.9	8.2	3.2	322.9		76
p.29	第26図	105	柱穴84	磁石	砂岩	(12.6)	6.6	3.4	292.5	欠損	77		
		106	住居群一括	磁石	砂岩	15.7	5.4	4.3	546.3		82		

() の値は残存値を示す

第4表 出土ガラス製品計測分類表【A区】

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考	実測 No.
p.11	第8図	2	地下式竈穴墓1	ガラス小玉	0.3	0.3	0.3	0.1以下	暗赤褐色	86
		3	地下式竈穴墓1	ガラス小玉	0.3	0.4	0.3	0.1以下	暗赤褐色、気泡有り	87
		4	地下式竈穴墓1	ガラス小玉	0.3	0.4	0.3	0.1以下	暗赤褐色、気泡有り	88

() の値は残存値を示す

第5表 出土鉄器計測分類表【A区】

掲載頁	図番号	掲載番号	出土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
p.11	第8図	1	地下式横穴墓1	銅	43.9	3.9	3.7	271.0	刃部(幅1.7・厚0.7・長33.2) 柄部木質残存	127
p.17	第14図	64	竪穴住居1	鎌	18.7	2.4	0.3	43.1	木質付着	126
		65	竪穴住居1	紡錘車	18.8	5.5	0.5	24.8		125

() の値は残存値を示す

第6表 出土青銅器計測分類表【A区】

掲載頁	図番号	掲載番号	出土位置	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
p.13	第10図	5	地下式横穴墓2	珠文鏡	6.9	—	鏡面0.01 鏡部0.6	28.1	一部欠損 背面に赤色顔料付着	111

() の値は残存値を示す



図版 1



A区全景



A区遺構完掘状況（南東から）

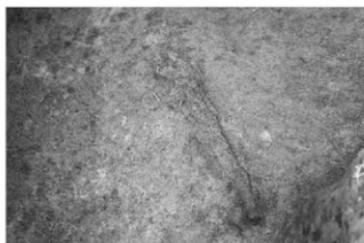
図版2



A区集石遺構1 (西から)



A区地下式横穴墓1 竖坑埋土 (南東から)



A区地下式横穴墓1 遺物出土状況 (北西から)

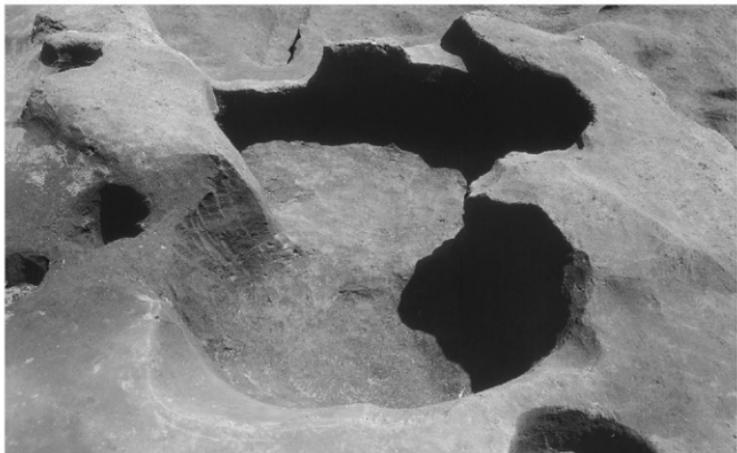


A区地下式横穴墓1 羨門部 (西から)



A区地下式横穴墓1 完掘状況 (東から)

図版3



A区地下式横穴墓2完掘状況（西から）



A区地下式横穴墓2埋土（南から）



A区地下式横穴墓2遺物出土状況（北東から）

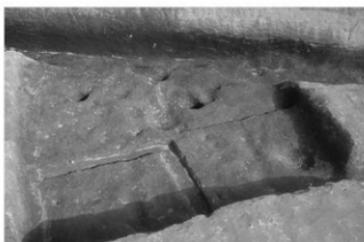
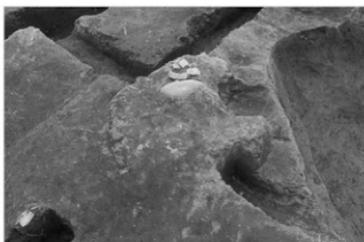


A区地下式横穴墓3竖坑検出状況（南東から）



A区地下式横穴墓3完掘状況（南西から）

図版 4



1 段目左：A区竪穴住居 1～5 完掘状況（南東から）

1 段目右：A区竪穴住居 1 土器埋設炉（南東から）

2 段目左：A区竪穴住居 1 鎌出土状況（西から）

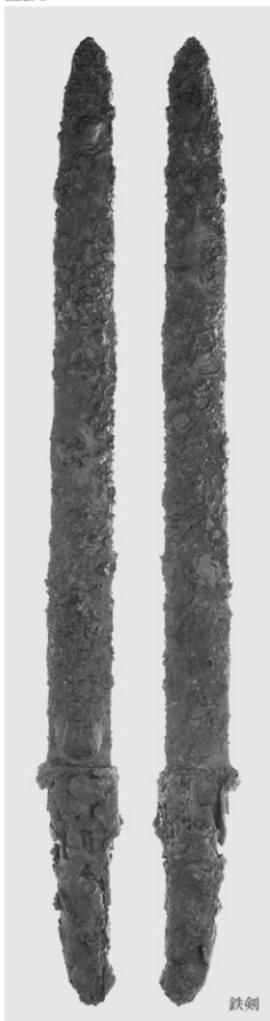
2 段目右：A区竪穴住居 6 土層（東から）

3 段目左：A区竪穴住居 7 カマド土層（東から）

3 段目右：A区竪穴住居 8 炉検出土状況（西から）

4 段目左：A区竪穴住居 9 完掘状況（西から）

图版 5



A区地下式横穴墓 1 出土遺物



A区地下式横穴墓 2 出土遺物①

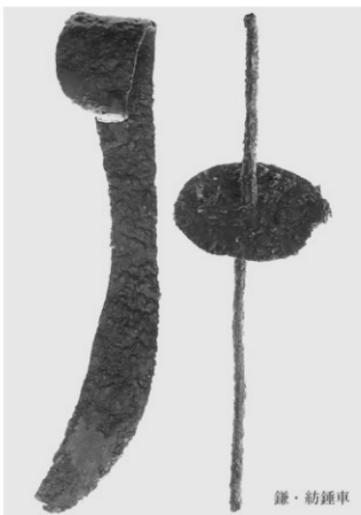


A区地下式横穴墓 2 出土遺物②

图版 6



A区竖穴住居 1 出土遗物①



鎌・紡錘車

A区竖穴住居 1 出土遗物②



A区竖穴住居 2~5 出土遗物



A区竖穴住居 6 出土遗物

図版 7



A区竪穴住居7出土遺物



A区竪穴住居8出土遺物



A区竪穴住居9出土遺物



A区溝状遺構出土遺物



A区その他出土遺物

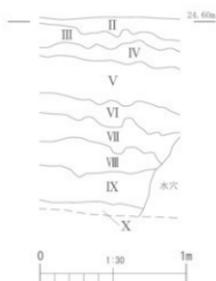


土層確認トレンチ



AT下位

写真図版 B区基本層



土層注記

- I 表土
- II 黄褐色 (Hae10YR8/8)。アカホヤ火山灰層。
- III 黒褐色 (Hae10YR2/3)。ローム。アカホヤの軽石を多く含む。
- IV 黒褐色 (Hae10YR2/2)。ローム。バミス (牛の軽か) を多く含む。
- V 暗褐色 (Hae10YR3/3)。ローム。
- VI 褐色 (Hae10YR4/4)。ローム。暗褐色ロームブロックを多く含む。
- VII に近い黄褐色 (Hae10YR5/4)。ローム。小林降下軽石を多く含む。
- VIII 褐色 (Hae10YR4/4)。ローム。暗褐色の硬いロームブロックを多く、浅黄色のロームブロックを少量含む。
- IX 褐色 (Hae10YR4/4)。ローム。暗褐色ロームブロックを多く含む。しまり強く、ややざらざらした質感。
- X 褐色 (Hae10YR4/6)。ローム。暗褐色ロームブロック、ATの2次堆積物を多く含む。

第27図 B区基本層序実測図 (S= 1/30)

第IV章 調査の成果 (B区)

第1節 調査成果の概要

B区は大きく4段に造成された事業地の上から4段目、標高約24～25mの部分に当たる。表土剥ぎの結果、旧地形は調査区中央部が低くなる浅い谷状の地形であることが確認された。遺構が集中するのは調査区北側で、西側と南側部分は削平及び現代の攪乱によりアカホヤ火山灰層(Ⅱ層)がほとんど消失している状況であった。また、谷底にあたる調査区中央部分では水穴が2ヶ所検出されている。調査の結果、旧石器時代の礫群2基、古代の堅穴住居19軒、周溝墓1基、多数の柱穴、近世～近代の溝4条等が検出された。また、縄文時代早期の遺物包含層(Ⅳ層)から少量であるが遺物が出土している。